



GS460 / GS350
取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

運転するまでに必要となる操作、注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 車両仕様

車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い	
キー	20
1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、 ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム.....	24
ワイヤレスリモコン.....	33
ドア	35
トランク	40
1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた	
フロントシート.....	44
ドライビングポジション メモリー（運転席）.....	45
シートポジション メモリー（助手席）.....	48
ヘッドレスト	50
シートベルト	53
ハンドル	58
インナーミラー.....	59
ドアミラー	60
1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方	
パワーウィンドウ.....	63
ムーンルーフ	66
1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方.....	70

1-6. 盗難防止システム

イモビライザーシステム	74
オートアラーム.....	75

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	80
SRS エアバッグ.....	81
チャイルドシートの取り付け	89

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって.....	98
エンジン（イグニッション） スイッチ	107
オートマチックトランス ミッション.....	111
方向指示レバー.....	116
パーキングブレーキ	117
ホーン（警音器）.....	118

2-2. メーターの見方

計器類	119
表示灯／警告灯.....	123
マルチディスプレイ	126

**2-3. ライトのつけ方・ワイパーの
 使い方**

ライトスイッチ.....	129
フォグライトスイッチ	132
ワイパー＆ウォッシャー.....	134

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	137
レーダークルーズ コントロール	141
DABC (ドライバーアシスト ブレーキングコントロール)	151
LKA (レーンキーピング アシスト)	154
NAVI・AI-AVS (AVS: アダプティブバリアブル サスペンションシステム)	161
運転を補助する装置	163
PCS (プリクラッシュセーフティ システム)	170

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	178
寒冷時の運転	180

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	186
・インテリアライト	187
・パーソナルライト	188

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	189
・グローブボックス	190
・コンソールボックス	191
・小物入れ	192
・コインホルダー	192
・カップホルダー	193
・ドアポケット	194

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	195
バニティミラー	196
外気温度表示	197
灰皿	198
シガレットライター	199
アクセサリソケット	200
シートヒーター& ベンチレーター	201
リヤアームレスト	203
リヤサンシェード	204
フロアマット	206
トランク内装備	207

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	212
内装の手入れ	215
タイヤについて	218

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	227
ガレージジャッキ	230
エンジンルームカバー	232
電球 (バルブ) の交換	234
ヒューズの点検、交換	242
電子キーの電池交換	258
ウォッシュャー液の補給	260

5 **トラブルが起きたら**

5-1. まず初めに

非常点滅灯	264
発炎筒	265
けん引について	267

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	271
警告メッセージが表示された ときは	275
パンクしたときは（ランフラット タイヤを除く）	287
パンクしたときは（ランフラット タイヤ）	295
エンジンがかからないときは ...	296
シフトレバーがシフト できないときは	297
キーを無くしたときは	298
電子キーが正常に働かない ときは	299
12V バッテリーがあがった ときは	301
オーバーヒートしたときは	304
スタックしたときは	307

6 **車両仕様**

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ （指定燃料・オイル量など）	310
----------------------------------	-----

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	316
--------------------------	-----

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	319
------------------	-----

さくいん

略語一覧	322
------------	-----

五十音順さくいん	323
----------------	-----

症状別さくいん	334
---------------	-----

1

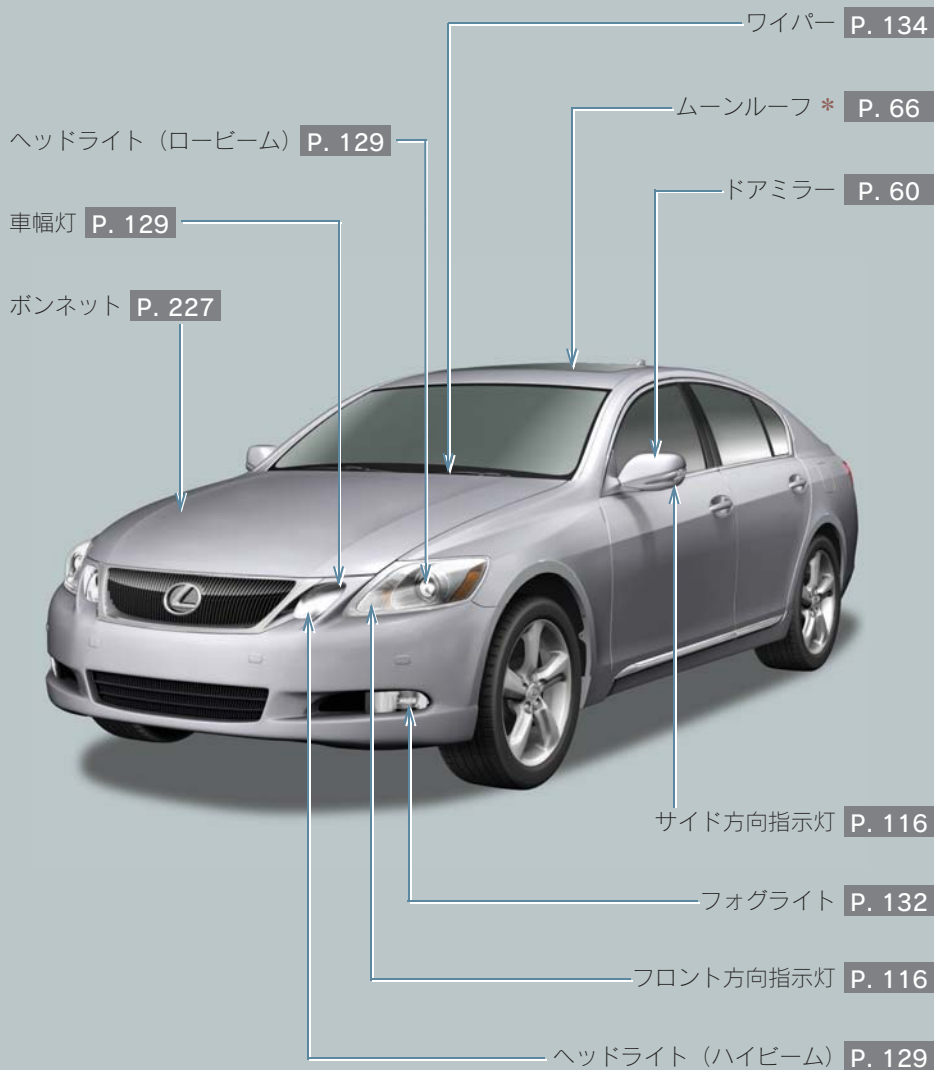
2

3

4

5

6





*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

運転席 SRS エアバッグ

P. 81

SRS ニーエアバッグ

P. 81

助手席 SRS
エアバッグ

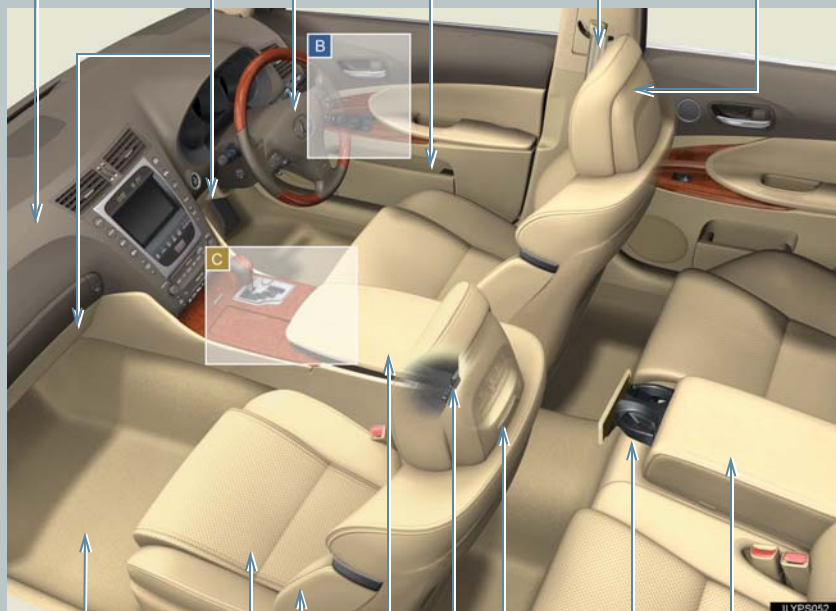
P. 81

ドアポケット P. 194

シートベルト P. 53

ヘッドレスト P. 50

A



フロアマット P. 206

フロントシート P. 44

SRS サイドエアバッグ

P. 81

コンソールボックス P. 191

リアアームレスト

P. 203

カップホルダー P. 193

灰皿 P. 198

アクセサリソケット
入力端子*

A

インナーミラー P. 59

パーソナルライト P. 188

ムーンルーフスイッチ * P. 66

パーソナルライト P. 188

インテリアライト P. 187



SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 81

インテリアライト P. 187

バニティミラー P. 196

セキュリティカメラ * P. 76

サンバイザー P. 195

*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ロックレバー P. 35

ドライビングポジションメモリースイッチ * P. 45

シートポジションメモリースイッチ * P. 48

ウインドウロックスイッチ

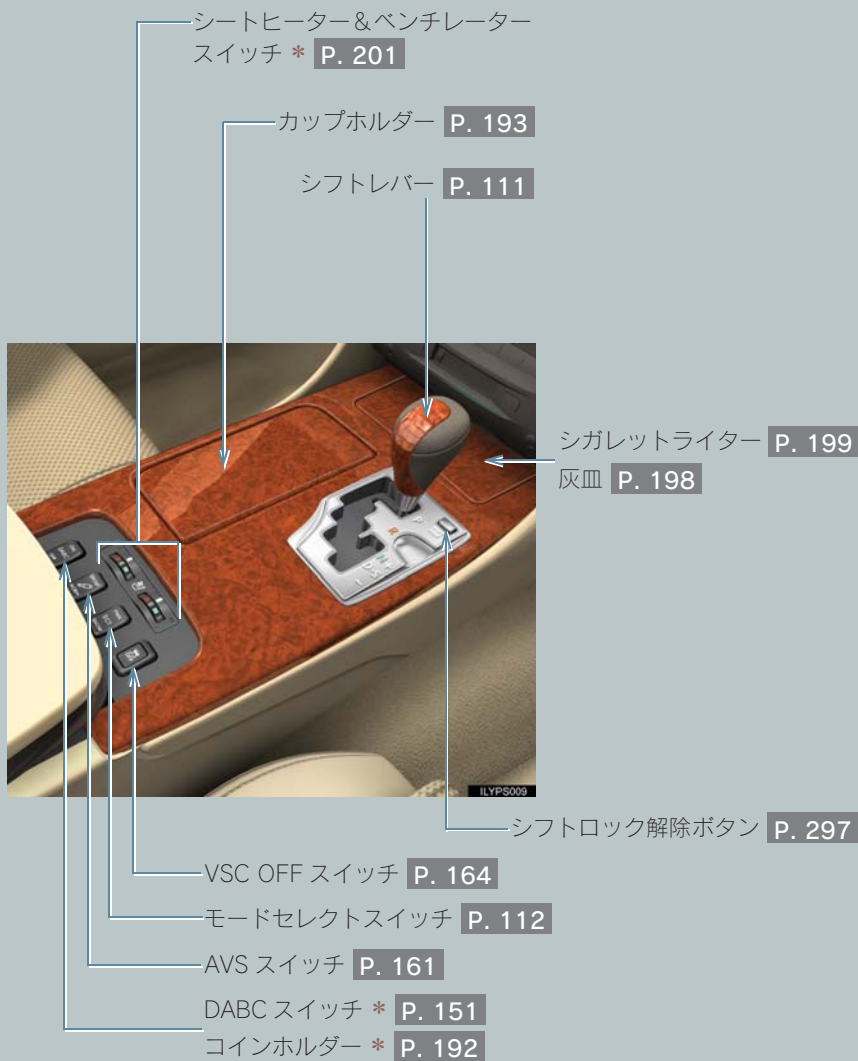
P. 63

ドアロックスイッチ P. 35

パワーウインドウスイッチ P. 63



C



*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル

グローブボックス P. 190

トランクオープナー
メインスイッチ P. 40

ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 134

マルチディスプレイ P. 126

メーター P. 119

ドライバーモニターカメラ *
P. 172

ライトスイッチ P. 129

方向指示レバー P. 116

フォグライト
スイッチ P. 132



“エンジン スタート ストップ” スイッチ P. 107

ホーン P. 118

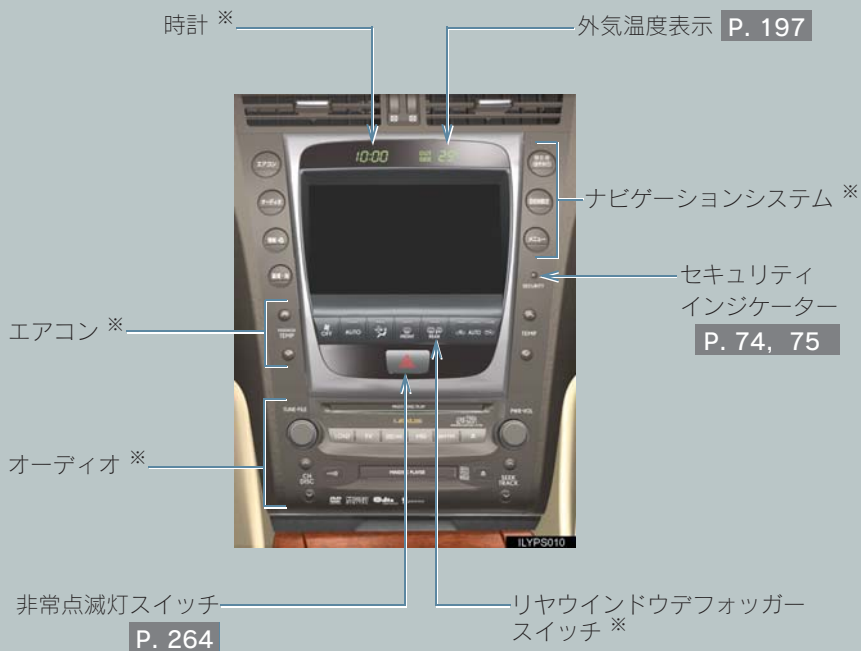
ボンネット解除レバー
P. 227

給油口オープナー P. 70

トランクオープナー P. 40

パーキングブレーキペダル P. 117

A



*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

オーディオスイッチ ※

トークスイッチ ※

DISP スイッチ P. 127

電話スイッチ ※



LKA スイッチ *

P. 154

ハンドル位置調整スイッチ P. 58

車間距離切り替え
レバー * P. 143

クルーズコントロールスイッチ * P. 137

レーダークルーズコントロールスイッチ * P. 141

C

リヤサンシェードスイッチ * P. 204

クリアランスソナースイッチ ※

AFS OFF スイッチ P. 130

侵入センサー OFF スイッチ P. 77

メーター照度調整スイッチ P. 120

オドメーター／トリップメーター
切り替え・トリップメーター
リセットボタン P. 120



ドアミラースイッチ P. 60

*: グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→ P. 89)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について





セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

-  スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。
-  操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

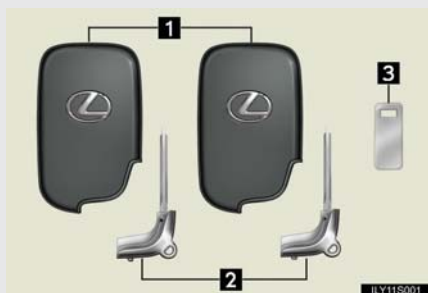
1

- 1-1. キーの取り扱い
 - キー 20
- 1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、
ロックのしかた
 - スマートエントリー&
スタートシステム 24
 - ワイヤレスリモコン 33
 - ドア 35
 - トランク 40
- 1-3. シート、ハンドル、ミラーの
調整のしかた
 - フロントシート 44
 - ドライビングポジション
メモリー（運転席） 45
 - シートポジションメモリー
（助手席） 48
 - ヘッドレスト 50
 - シートベルト 53
 - ハンドル 58
 - インナーミラー 59
 - ドアミラー 60
- 1-4. ドアガラス・ムーンルーフの
開け方、閉め方
 - パワーウインドウ 63
 - ムーンルーフ 66
- 1-5. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 70
- 1-6. 盗難防止システム
 - イモビライザーシステム 74
 - オートアラーム 75
- 1-7. 安全にお使いいただくために
 - 正しい運転姿勢 80
 - SRS エアバッグ 81
 - チャイルドシートの
取り付け 89

1-1. キーの取り扱い

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 24)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→ P. 33)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー



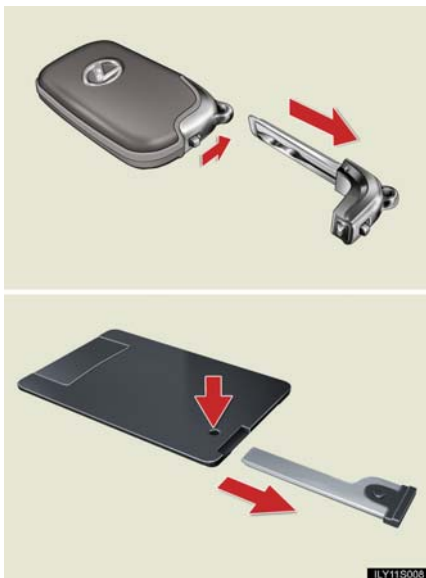
1 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 24)

2 メカニカルキー

カードキーには、使用方法などが記されたインフォメーションカードが同封されています。カードキーとともに携帯していただくことをおすすめします。

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとに戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 299)

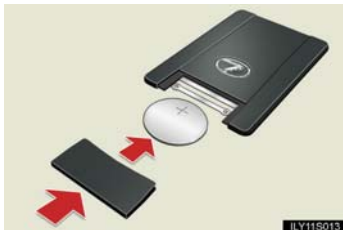
知識

■ カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時のみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスとトランクスルードアを施錠します。(→ P. 40, 190, 208)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。

(→ P. 298)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

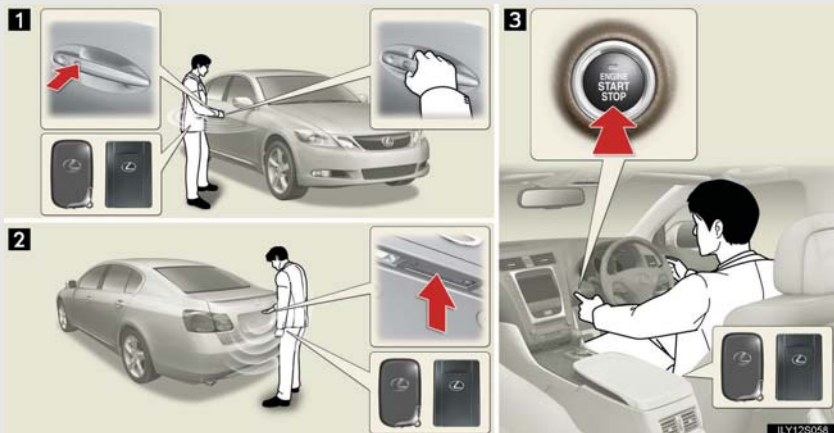
- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

**注意****■ カードキー取り扱いの注意**

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯しているだけで以下の操作がおこなえます。
(必ず運転者が携帯してください。)



- 1 ドアの施錠・解錠 (→ P. 25)
- 2 トランクの解錠 (→ P. 25)
- 3 エンジンの始動・停止 (→ P. 107)

ドアの解錠・施錠



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ*が閉まります。

トランクの解錠



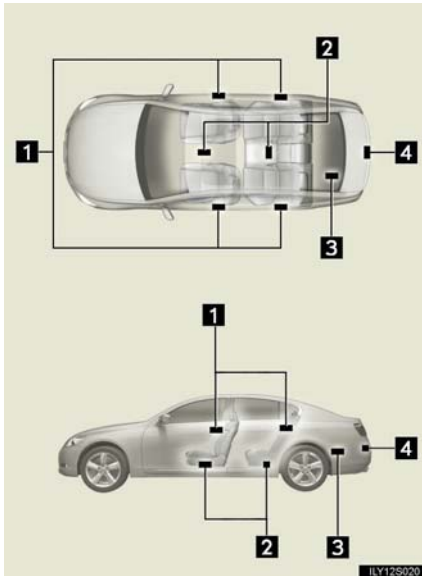
トランクオープンスイッチを押して解錠する

ただし、トランクオープナーのメインスイッチがOFFのときは解錠できません。
(→ P. 40)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

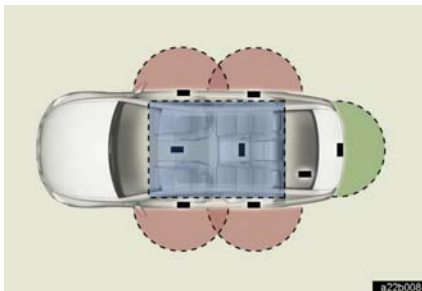
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)
- : トランクの解錠時
トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

 知識

■ 作動の合図

ブザー音と非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 299)




- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする


手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する（操作中のオートアラーム誤作動防止→ P. 77）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないことを確認後、 ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手を離れた後 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。）

マルチディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピッピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピッピッ”（4 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピッピッ”（1 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピッピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける

 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→ P. 75）

■ 節電機能

電子キーの電池と車両の 12V バッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 30 日以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 1m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する (→ P. 33)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→ P. 299)

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1～2 年です。(電子キーを使用しなくても電池は消耗します。) スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 258)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ テレビ
 - ・ パソコン
 - ・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
 - ・ 電気スタンド

■ システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警告音が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。→ P. 31)
- トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所 (スペアタイヤ*付近、トランク内側の端)、状況 (金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 41)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを携帯電話などへメールでお知らせすることができます。
- うっかり通知機能は、車内の電子キーの検知を利用しています。そのため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

詳しくは別冊「HDDナビゲーションシステム取扱説明書／G-Linkサービス／G-Security」をご覧ください。

■ ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・ エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のバツケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
(→ P. 275)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る (キー閉じ込み防止機能)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせず、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→ P. 299
- エンジンの始動：→ P. 300

■電池が切れたときは

→ P. 258

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムの作動や解錠操作のセキュリティ機能などの変更ができます。（カスタマイズ一覧→ P. 316）

 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 26）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

車外からドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（長押し）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（長押し）
- 5 トランク解錠（長押し）

知識

■ 作動の合図

ドア : ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

(施錠は1回、解錠は2回)

トランク : ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

→ P. 27

■ オートアラームについて

→ P. 75

■ 電池の消耗について

→ P. 29

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 31

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

● ドア・トランクの施錠、解錠 : → P. 299

● エンジンの始動 : → P. 300

■ 電池が切れたときは

→ P. 258

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 27

■販売店で設定可能な機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 316)

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチ、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→ P. 25

■ ワイヤレスリモコン

→ P. 33

■ ドアロックスイッチ

▶ 運転席



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに車外からフロント席を施錠するときは

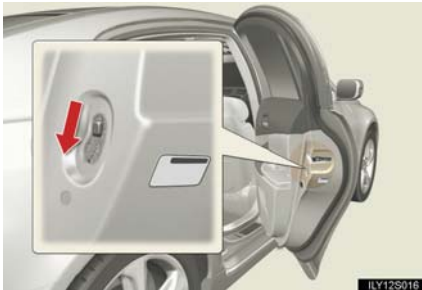
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 車外のドアハンドルを引き上げたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



LOCK 側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアのチャイルドプロテクターを LOCK 側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

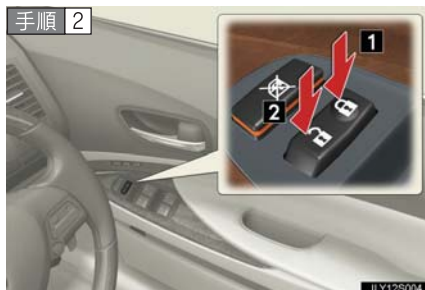
以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする（その後 10 秒以内に手順 2 をおこなう）



シフトレバーをPまたはNに入れ、運転席ドアロックスイッチの**1**または**2**を約5秒間押しはなす

設定または解除をおこなう機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次ページの表から選択します。

機能	シフトレバーの位置	スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	1
シフト連動オートアンロック		2
車速感应オートロック	N	1
運転席ドア連動オートアンロック		2

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。

知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 317)

**警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席にのせるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

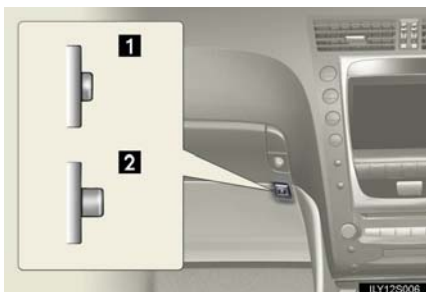


トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

- ▶ スマートエントリー&スタートシステム
→ P. 25
- ▶ ワイヤレスリモコン
→ P. 33

トランクオープナーを使用できなくするには



グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- 1 ON
- 2 OFF

ワイヤレスリモコン、スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクをいったん半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランクライト

スイッチを ON に設定しておくともトランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。



1 ON

2 OFF

■ トランクグリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。
引き下げるときは、トランクグリップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクオープンスイッチで開けることができます。

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 299）

警告

■ 走行中の警告

走行中はトランクを閉じてください。

開けたままにしておくと、荷物が投げ出されたり、排気ガスが車内に入るおそれがあります。

■ お子さまをのせるときは

お子さまだけを車内に残さないでください。

お子さまが車内やトランクの内側から施錠してしまい、閉じ込められて、温度の上昇や窒息などにより生命にかかわるような重大な健康障害を受けるおそれがあります。

■ イージークローザーについて



- トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トランクが半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをトランクの間に挟まないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告**■ トランクを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



● 周囲の安全を確かめ、トランクで指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● おさまにはトランクの開け閉めをさせないでください。手、腕、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● 傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくくなる場合があります。また急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。

● 強風時の開閉には十分注意してください。

トランクが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。

■ トランクを使用するときは

トランクが全開状態で静止していることを確認して使用してください。とくに傾斜地では開いたあとにトランクが落ちる場合があります。危険です。

注意**■ イージークローザーの故障を防ぐために**

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■ ダンパーステーについて

トランクにはトランクを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

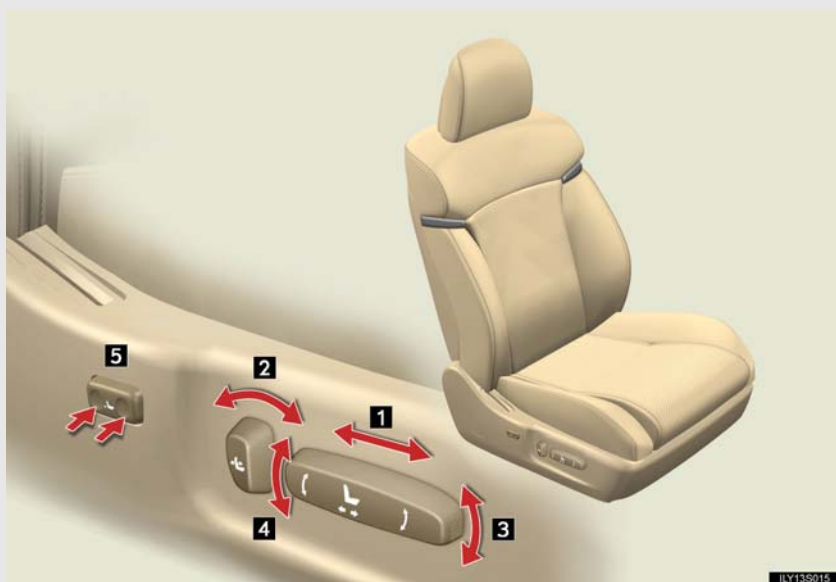
● ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

● ロッド部を軍手などで触れない

● トランクにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない

● ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート



1 前後位置調整

運転席は、シートの動きにあわせてヘッドレストの高さも自動で上下します。

2 リクライニング調整

3 クッション前端的上下調整

4 シート全体の上下調整

5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）

⚠ 警告

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

ドライビングポジションメモリー（運転席）*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドル・ドアミラーを調整する

手順 3



SET ボタンを押しながら、または押した後 3 秒以内に 1～3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2



1～3のうち呼び出したいボタンを押す

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席のみ）

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの **i** ボタンをブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

手順 3 いずれかのドアを開ける

i ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→ P. 75）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める




1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す（運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう）

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

 知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  ボタンをブザーが鳴るまで押す

ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にした後も、運転席ドアを開けて 180 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

また運転席ドアを開けた後、運転席ドアを閉めた場合は、閉めてから 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■ 12V バッテリーとの接続が断たれたときは

記憶したポジションが消去されるので、再設定が必要となります。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置が各シート調整機構の最端部にある状態で更にその端部方向に操作をすると、登録位置にずれが生じる事があります。

 **警告**
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたりたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートポジションメモリー（助手席）*

お好みの助手席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
シートポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON
モードにする

手順 2 助手席の位置を調整する

手順 3



SET ボタンを押しながら、または
押した後 3 秒以内に 1～3 のう
ち登録したいボタンをブザーが
鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている
場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。



1～3のうち呼び出したいボタン
を押す

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にした後でも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならポジションの呼び出しができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する

■ 12V バッテリーとの接続が断たれたときは

記憶したポジションが消去されるので、再設定が必要となります。

 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたらないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

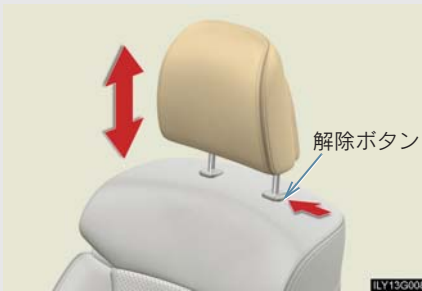
■ 上下調整

▶ 運転席



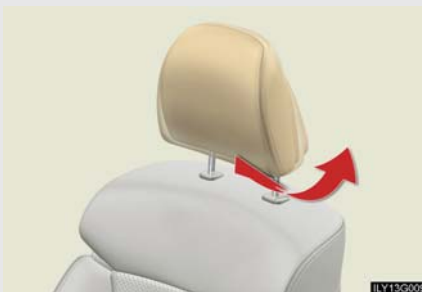
シートの前後位置調整に連動して、ヘッドレストの高さも自動で調整されます。(→ P. 44)

▶ 助手席・リヤ席



下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

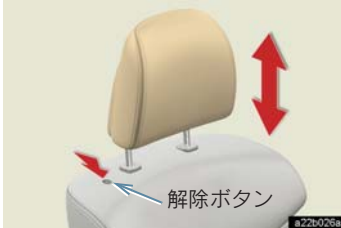
■ 前後調整 (フロント席・リヤ外側席)



ヘッドレストをつかみ、前後に傾けます。

知識

■ 運転席のヘッドレストの高さを手動で調整するには



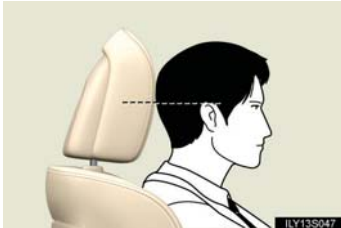
解除ボタンを押しながら操作します。

■ ヘッドレストを取りはずすときは

助手席・リヤ席：解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

運転席：ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■ リヤ中央席について

使用するときには、常に格納位置から一段上げてください。



■ **ヘッドレストについて**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

シートベルト

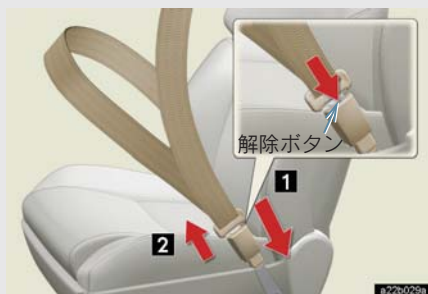
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 1 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 2 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 3 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- 4 ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



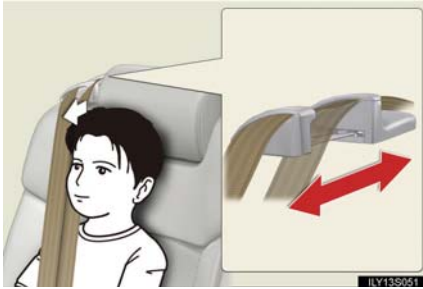
- 1 固定
“カチッ”と音がするまで挿し込みます。
- 2 解除
解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



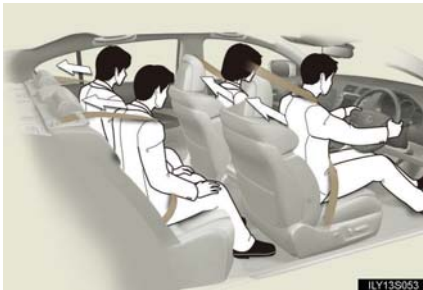
- 1 下がる
ボタンを押しながら下げます。
- 2 上がる
そのまま引き上げます。
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）



肩部ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻きこみ、より早く乗員を拘束することで衝突の被害を軽減します。

また急ブレーキをかけたときも作動します。（→ P. 170）

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。また格納時に、シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

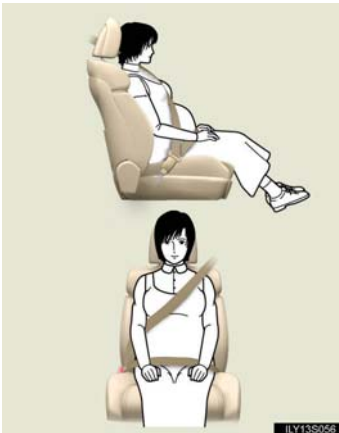
■ チャイルドシート固定機構付シートベルト

助手席とリヤ席の肩部ベルトは、いっぱいまで引き出してから戻すとその位置で固定し引き出せなくなります。

これは、チャイルドシートを固定するための機構です。(→ P. 90)

解除するには、ベルトを一度完全に巻き戻してから、もう一度引き出してください。

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 93)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 53)

■ シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

 **警告****■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでそのシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトは交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解および車の破棄などは、必ずレクサス販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動しけがをするおそれがあるばかりでなく、不適切に扱うと、事故の際に正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、シートベルトがロックされ、引き出すことも巻き取ることもできなくなります。作動後、シートベルトは再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ プリクラッシュシートベルトについて

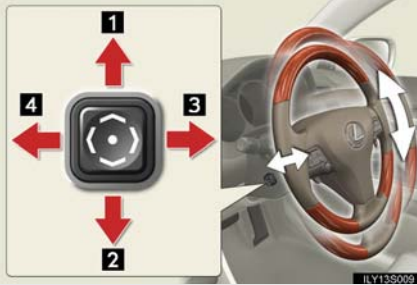
プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

■ チャイルドシート固定機構付シートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付シートベルトで遊ばせないでください。
誤って作動させ、万一、ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 手前に動く
- 4 前方に動く

オートアウェイ&オートリターン機構



“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが移動します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置に戻ります。

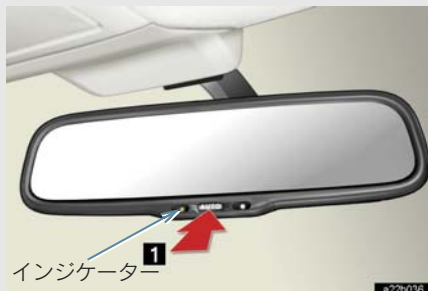
警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた インナーミラー

自動 (AUTO) モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



1 自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケータが点灯します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。



知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整ができます。



- 1 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)
- 2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する

マニュアル作動での格納・復帰のしかた



- 1 ボタンをみじかく押す
もう一度押すと、もとの位置に戻ります。

オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。



- 1 ボタンを約 1 秒以上押す
(オート作動になるとミラー選択スイッチの表示灯が 9 回点滅します。)
もう一度ボタンを約 1 秒以上押すとマニュアル作動にもどります。
(マニュアル作動になるとミラー選択スイッチの表示灯が 3 回点滅します。)

 知識**■ ミラーが曇ったときは**

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。
(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ レインクリアリングミラー

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる(親水効果)ことにより、後方を見やすくします。次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を1・2日間あてると回復します。

- ミラーの汚れをふき取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場などの日のあたらない場所に駐車していたとき

■ ミラー角度の自動調整(ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのミラー角度を登録すると、自動で調整されます。(→ P. 45)

■ リバース連動機能

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置(L・Rの間)にしておくと、この機能は作動しません。

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するときは

寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないときがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

 **警告**

■ **走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ **ミラーが動いているときは**

手を触れないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているときは**

鏡面が熱くなるので触れないでください。

 **注意**

■ **ミラーが凍結したとき**

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※（強く引く）
- 3 開ける
- 4 自動全開※（強く押す）

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。
(→ P. 33, 299)
- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。
(→ P. 25)

■ オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 75)

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 317)

警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

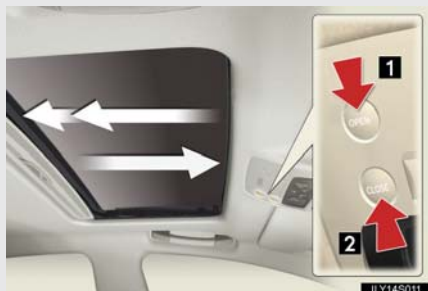
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ/ダウンできます。

■ 自動開閉



1 開く

全開手前位置で止まります。さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでもムーンルーフを開閉できます。
(→ P. 33, 299)
- スマートエントリー&スタートシステムでもムーンルーフを閉じることができます。(→ P. 25)

■ 反転して閉じ切らないときは

下記の操作をおこなってください。

● スライドクローズ時に反転し、閉じ切らない場合

CLOSE 側を押し続ける※

- ・ スイッチを押し続けている間ムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
- ・ ムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

● チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 UP 側を押す

ムーンルーフをチルトアップ状態にします。

手順 2 スイッチから一度手を離し、もう一度 UP 側を押し続ける※

- ・ スイッチを押し続けている間ムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
- ・ ムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

※ 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作をおこなっても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→ P. 75)

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間は操作できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンスルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ 風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンスルーフが開くときは連動して開きます。

■ 販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンスルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 317)

**警告****■ ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は開口部から手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

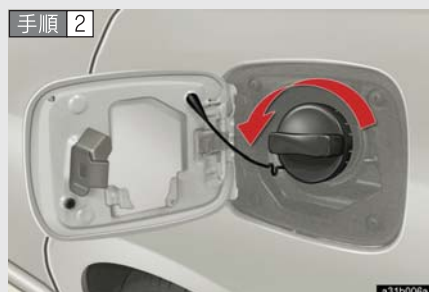
■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方



スイッチを押す



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチツ”と一度音がするまでまわして閉めます。

手を離すとキャップが逆方向に少し戻ります。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ 燃料タンク容量

約 71L

■ 給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内のレバーを引きます。

※レバーはヒューズ点検口の奥にあります。



警告

■ 給油について

給油するときは以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内に戻ったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切り替えやエンジンの始動ができません。



“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムを無効にするなどの改造や取りはずしをしないでください。
お守りいただかないとシステムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

■ オートアラームを設定するには



ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使ってドアまたはトランクを解錠する
- “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにする（数秒後に解除・停止します。）

 注意

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。

- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、12Vバッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

■ セキュリティカメラ*



オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link サービス／G-Security」をご覧ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



- 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す



- セキュリティインジケータが速く点滅している間にオートアラームを設定する（最大 5 分間）

知識

■ 侵入センサーの停止・復帰について

- 侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーによる解錠操作をおこなうと、侵入センサーが復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■ 販売店で設定可能な機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 318)

注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合には、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して、車両から離れる場合

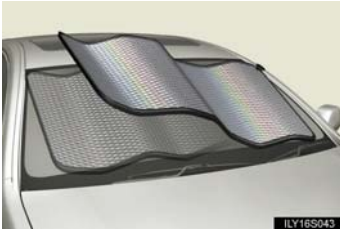
 注意



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 霜よけシートが風などで動いたとき

- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いているとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車内に伝わったとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 44）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 44）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 58）
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 50）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 53）

警告

■ 走行中は

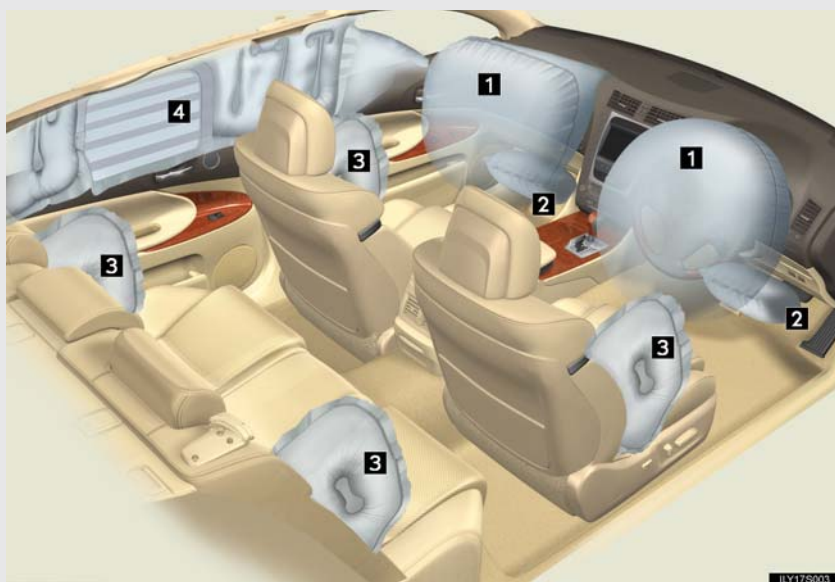
- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席*乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルハブ、SRS エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。SRS エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントドアガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに回答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

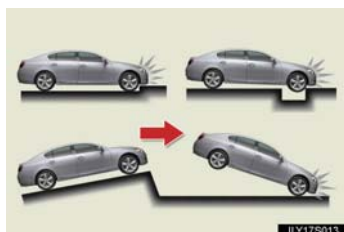
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）の場合は、作動する車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、側面から強い衝撃を受けた場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がなくても助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき

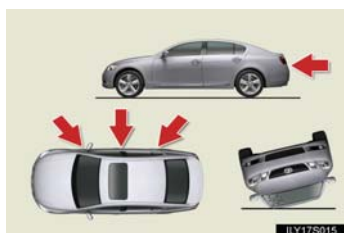
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

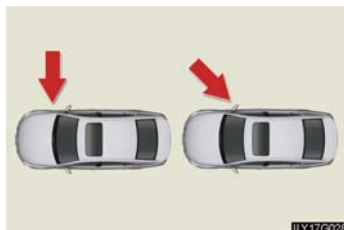
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝撃
- 後方からの衝撃
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

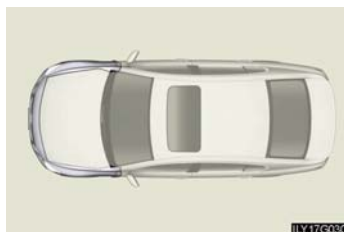


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

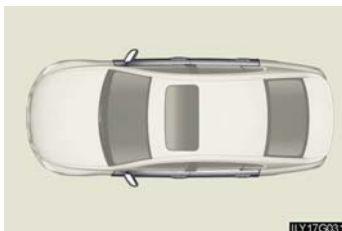
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。
レクサス販売店に連絡する前に12Vバッテリーのケーブルをはずさないでください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分や助手席 SRS エアバッグのカバー部、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグのついているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない



警告

■ SRS エアバッグについて

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席にのせ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしないようにする



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。



警告

■ SRS エアバッグについて

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだ後で、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。
- 助手席座面には座布団などを敷かないでください。乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席 SRS エアバッグが作動しないことがあります。

■ 改造・修理・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・修理・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまをのせるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 1** チャイルドシート固定機構付シートベルト（助手席・リヤ席シートベルト）



- 2** ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー

リヤシートの外側の座席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。）



- 3** トップテザーアンカー

テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

チャイルドシート固定機構付シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする



肩部ベルトを最後まで引き出し、わずかに戻す（ロックモード）

巻き取り方向のみの作動に切り替わります。



チャイルドシートをリヤシートに押さえつけながら、肩部ベルトを巻き取らせる

たるみがなくなるまで巻き取らせた後、引き出せないことを確認します。



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

シートベルトで固定したチャイルドシートの取りはずし

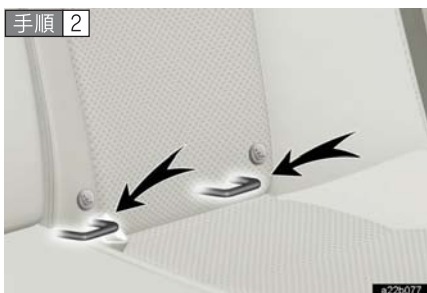


バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせてください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ヘッドレストをいちばん下まで下げる



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

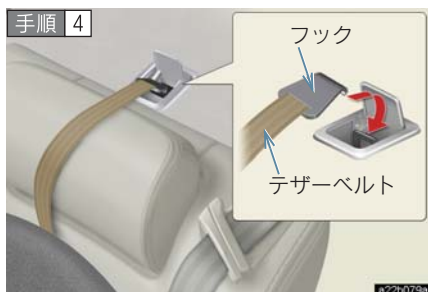
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってしっかり固定されているか確認します。



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、GS460 / GS350 指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート (ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のレクサス純正チャイルドシート) を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。

■チャイルドシート選択の目安（レクサス純正品の場合）

▶チャイルドシート固定専用バーで固定するタイプ

		体重	身長	参考年齢
チャイルドシート (含むベビーシート)	後ろ向き	9 kg 未満	70 cm 未満	新生児～9 カ月頃
	前向き	9 ～ 18 kg 未満	70 ～ 100 cm 以下	9 カ月頃～4 才頃

▶シートベルトで固定するタイプ

		体重	身長	参考年齢
チャイルドシート (含むベビーシート)	後ろ向き	10 kg 未満	70 cm 未満	新生児～9 カ月頃
	前向き	9 ～ 18 kg 未満	70 ～ 100 cm 以下	9 カ月頃～4 才頃
ジュニアシート		15 ～ 36 kg	100 ～ 150 cm	3 才頃～12 才頃

⚠警告

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。（→ P. 90, 91）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアや車両のシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシート固定機構付シートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付シートベルトで遊ばせないでください。誤って作動させ、万一、ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

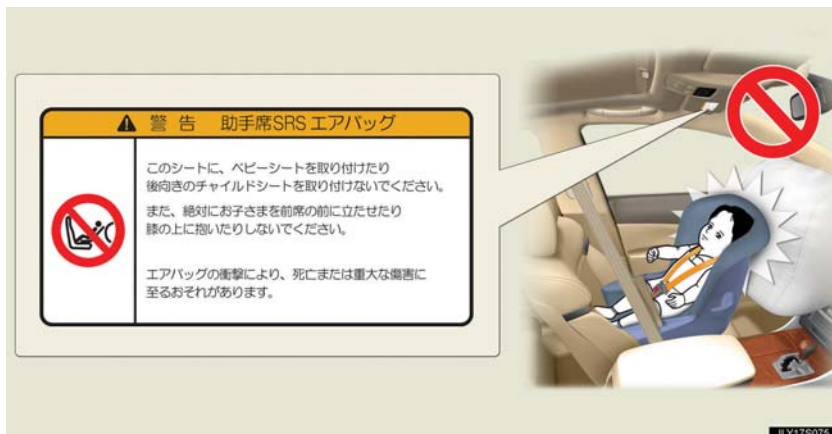
■チャイルドシートを取り付けるときは

- シートベルトとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを取り付けるときは、チャイルドシート固定機構が作動しないようにするため、肩部ベルトをいっぱいまで引き出さないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心になるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- 固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	98
エンジン（イグニッション） スイッチ	107
オートマチックトランス ミッション	111
方向指示レバー	116
パーキングブレーキ	117
ホーン（警音器）.....	118

2-2. メーターの見方

計器類.....	119
表示灯／警告灯	123
マルチディスプレイ	126

2-3. ライトのつけ方・ ワイパーの使い方

ライトスイッチ	129
フォグライトスイッチ	132
ワイパー & ウォッシャー	134

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	137
レーダークルーズ コントロール	141
DABC（ドライバーアシスト ブレーキングコントロール）....	151
LKA（レーンキーピング アシスト）.....	154
NAVI・AI-AVS （AVS: アダプティブバリアブル サスペンションシステム）.....	161
運転を補助する装置	163
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）.....	170

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	178
寒冷時の運転	180

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンを始動する (→ P. 107)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→ P. 111)

手順 2 パーキングブレーキを解除する
(→ P. 117)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にしてください。

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける

手順 3 シフトレバーを P にする

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押してエンジンを停止する

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識**■ 上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→ P. 163)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などをアルミ部分に取り付けることはできません。

 **警告****■ シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 発進するときは

ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。



警告

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 走行中に決してシフトレバーをP・Rの位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。
- 走行中はシフトレバーをNにしないでください。
Nにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 113)

 **警告****■ 運転するときは**

- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 冠水した道路は走行しないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- スイッチボックスのフタは必ず閉めてください。
事故や急ブレーキの際に思わぬけがをするおそれがあります。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンプレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

■ 停車するときは

- アクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジン回転中のままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏んでください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ、プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

**警告****■ 駐車するときは**

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部分の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。



警告

■ ブレーキをかけるときは

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一、エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ AWD 車：万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転中は**

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 287, 295 をご覧ください。



注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、オートマチックトランスミッション、トランスファー（AWD車）、デифференシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（AWD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4



“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

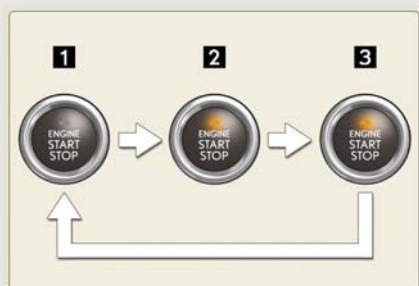
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。

(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)



1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーがP以外のときはOFFになりません。

知識

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチディスプレイにメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ エンジンが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 74)

- “エンジン スタート ストップ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
- 自動 OFF 機能
シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ” スイッチが自動で OFF になります。
- 電子キーの電池の消耗について
→ P. 29
- 電子キーが正常に働かないときは
→ P. 299
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況
→ P. 27
- ご留意いただきたいこと
→ P. 30

 **警告****■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に “エンジン スタート ストップ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。



■ **12V バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **エンジンを始動するとき**

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

シフトレバーの操作は、ゆっくりと確実に行ってください。



← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	Sモード走行※ ² (→ P. 113)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※² Sモードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、Dポジションに比べエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択（モードセレクトスイッチ）

走行・使用条件に合わせて以下のモードを選択できます。



1 パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）

2 通常走行モード

3 スノーモード（雪道など、すべりやすい路面での発進・走行）

通常走行モードにもどすときは SNOW をもう一度押します。

Sモードでの操作方法

シフトレバーをSの位置にして、以下のように操作します。



- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて6、5、4レンジ（GS460）／4レンジ（GS350）に設定されます。ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期シフトレンジが3、2レンジになる場合があります。（→ P. 115）

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、8 段階 (GS460) / 6 段階 (GS350) から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 「1」 から 「7」 (GS460) / 「1」 から 「5」 (GS350) のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、エンジンブレーキ段数が自動的に切り替わります。

知識

■ S モード

6 レンジ (GS460) / 4 レンジ (GS350) 以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると、8 レンジ (GS460) / 6 レンジ (GS350) に設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー (S モード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望するエンジンブレーキ段数にシフトされない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に「7」、「6」、「5」または「4」(GS460) / 「5」または「4」(GS350) ヘシフトしてもエンジンブレーキは効きません。(→ P. 137, 141)

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→ P. 297

■シフトレバーを S にしても、 表示灯が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。

▶ GS460

AI-SHIFT は、シフトレバーを D または S にしているときに自動的に作動します。

▶ GS350

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。

(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

NAVI・AI-SHIFT :

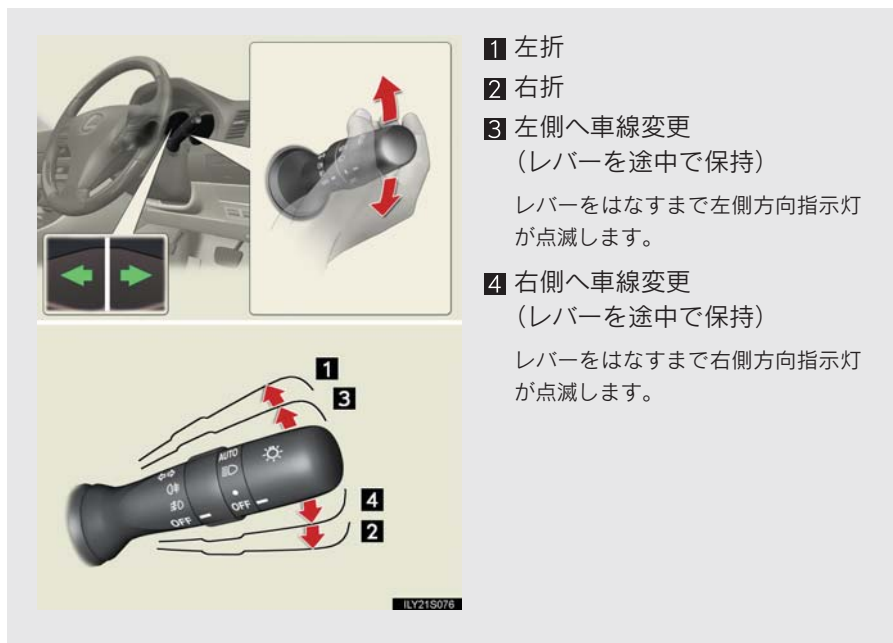
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

 **警告**

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた パーキングブレーキ



パーキングブレーキがかかる※
(再度踏み込むと解除される)

※ 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。



警告

■ 走行前の警告

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗し事故につながるおそれがあります。

2-1. 運転のしかた ホーン（警音器）





“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

5 マルチディスプレイ

→ P. 126

6 オドメーター・トリップメーター

▶ オドメーター

走行した総距離を km の単位で表示します。

▶ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

オドメーター/トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットボタン



- 1 表示を切り替える
- 2 トリップメーターの走行距離が0にもどる

メーター照度調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。



- 1 明るくなる※
- 2 暗くなる※

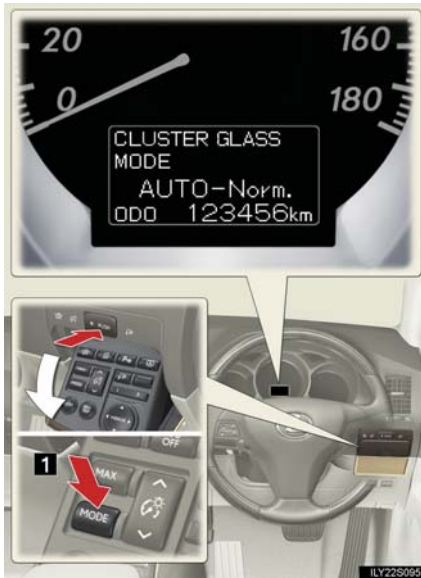
※時計と外気温表示の明るさを調整することはできません。また、最も暗く調整すると、シフト照明と足元照明が消灯します。(→P. 186)

- 3 明るさが最大になる

この状態を選択すると、ナビゲーションシステム画面を常に昼画表示にしておくことができます。

光感応機能

メーターの反射やぎらつきを抑えるために、自動または手動でメーターガラスの透過度を調整できます。スイッチ操作で、7つのモードから設定を選択できます。



1 マルチディスプレイに現在の設定を表示させる・モードを切り替える

モードを切り替えるには、ボタンを一度押してから6秒以内にもう一度押します。押すたびに以下の順番に設定モードが切り替わります。

1. AUTO-Norm
2. AUTO-Lo
3. AUTO-Hi
4. MANUAL-1
5. MANUAL-2
6. MANUAL-3
7. MANUAL-4

1～3を選択すると、周囲の日射量によりメーターガラスの透過度が自動で調整されます。4～7を選択した場合、ある一定の日射量をこえると透過度は固定されます。(Norm～Hi、1～4はメーターガラスの透過度のレベルを表します)



■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。(→ P. 304)
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

■ **光感応機能を正常に作動させるには**

リヤウインドウガラスにステッカーやスモークフィルムを貼ったり、リヤシートのうしろにものを置いたりしないでください。

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯で車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 116)



車幅灯表示灯 (→ P. 129)



ヘッドライト上向き表示灯
(→ P. 129)



フロントフォグライト
表示灯 (→ P. 132)



リヤフォグライト表示灯*
(→ P. 133)



※ AVS スポーツモード表示灯
(→ P. 161)



ECT PWR 表示灯
(→ P. 112)



ECT SNOW 表示灯
(→ P. 112)



※ DABC 表示灯*
(→ P. 151)



シフトポジション・エンジ
ンブレーキ段数表示灯
(→ P. 113)



クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 137, 141)



LKA 表示灯* (→ P. 154)



クリアランスソナー
表示灯* (別冊「HDD ナビ
ゲーションシステム取扱説
明書」参照)



※ AFS OFF 表示灯
(→ P. 130)



※ スリップ表示灯
(→ P. 164)



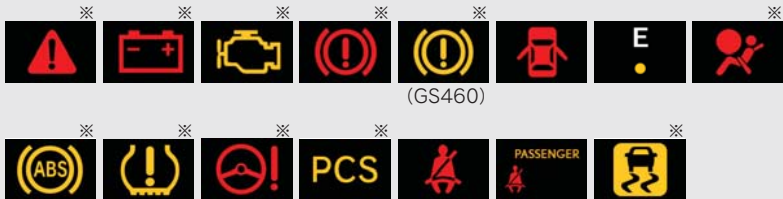
※ スリップ OFF 表示灯
(→ P. 165)

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 271)



※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯が“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

2-2. メーターの見方 マルチディスプレイ

マルチディスプレイは、走行に関する様々な情報や警告メッセージを表示します。



トリップインフォメーション
(→ P. 127)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

クリアランスソナー表示*
(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。

レーダークルーズコントロール表示*
(→ P. 141)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

レーンキーピングアシスト表示*
(→ P. 154)

レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

警告メッセージ (→ P. 275)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

トリップインフォメーション

■ 航続可能距離

航続可能距離
274 km

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 給油後平均燃費

給油後平均燃費
100 km/L

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 外気温

外気温
25 °C

外気温を表示します。

-40°C ~ 50°C のあいだで表示します。



■ システムチェック表示

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため「チェック中」と表示されます。チェックが終わると「チェック完了」と表示され、通常の画面表示になります。

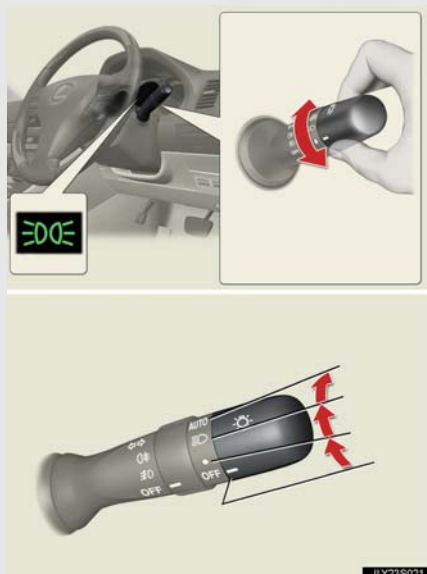


■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

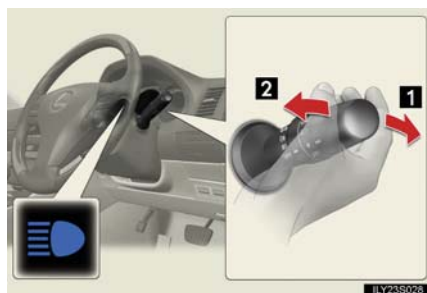
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- ☰ 上記ライトとヘッドライトを点灯
- AUTO ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき）

ハイビームにする



- 1 ヘッドライト点灯時ハイビームに切り替え
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム)

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



- 1 スイッチを押して OFF にする
メーター内の AFS OFF 表示灯が点灯します。

 知識


■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けると自動的に消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧→ P. 318)

■ 電球の交換について

→ P. 234

 注意

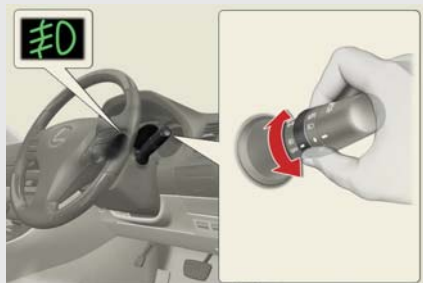
■ 12V バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライト類を長時間点灯しないでください。

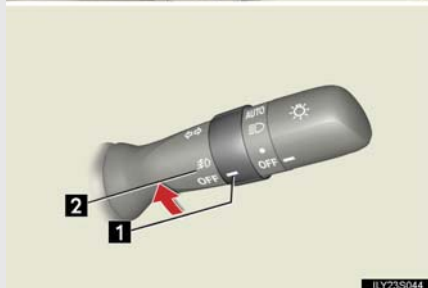
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。(リヤフォグライト*はフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます)

▶ フロントフォグライトスイッチ



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯



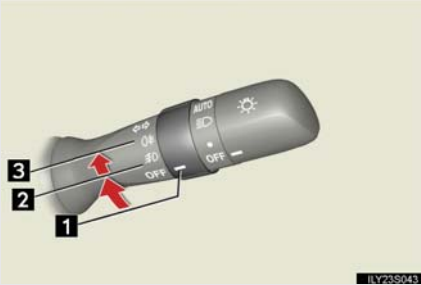
ILY23S044

▶ フロント&リヤフォグライトスイッチ



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯
- 3 フロント&リヤフォグライト点灯（再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯）

手を離すと **OFF** の位置までもどります。


 知識

■ リヤフォグライト*について

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

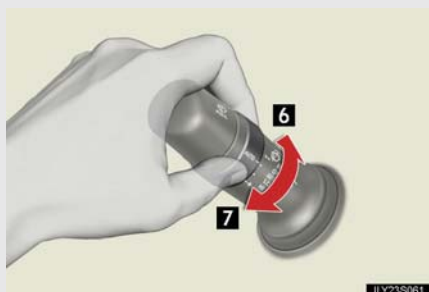
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



- 1 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)
- 5 停止 (OFF)



- 6 雨滴センサーの感度調整 (低)
- 7 雨滴センサーの感度調整 (高)



- 8 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

 知識

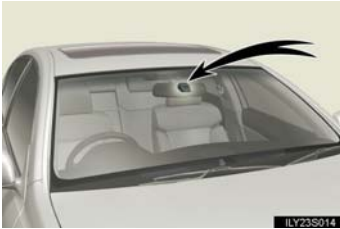
■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

■ 雨滴感知センサー


センサーが雨滴量を判定します。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。

■ 販売店で設定可能な機能

液だれ防止作動の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧→ P. 318）

 **警告**
■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。



■ **フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方 クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 インジケーター
- 2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



メインスイッチを ON にする
OFF には再びスイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える



1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

 知識**■ 設定条件について**

- シフトレバーが D、または S の「4」・「5」・「6」 「7」・「8」 (GS460) / 「4」・「5」・「6」 (GS350) のとき設定できます。
- 車速は約 40 ~ 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h 以下になった
- 車が横滑りして S-VSC が働いた

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化にあわせた追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。



- 1 インジケータ
- 2 マルチディスプレイ
- 3 クルーズコントロールスイッチ
- 4 車間距離切り替えレバー

■ 速度を設定する



- 1 メインスイッチを ON にする
OFF には再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する



定速制御モードを選択する

- 1 メインスイッチを ON にする
- 2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFF には再びスイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

■ 設定速度を変えるには

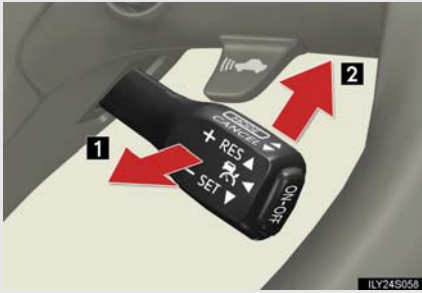


- 1 増速
- 2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

定速制御中レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

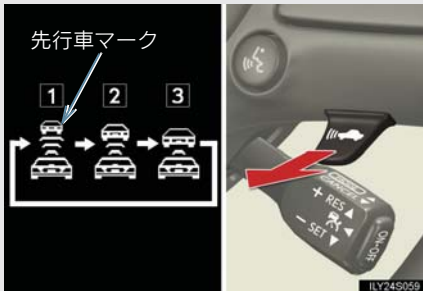
レバーを手前に引きます。

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



レバーを手前に引くごとに車間距離を切り替える

1 長い

2 中間

3 短い

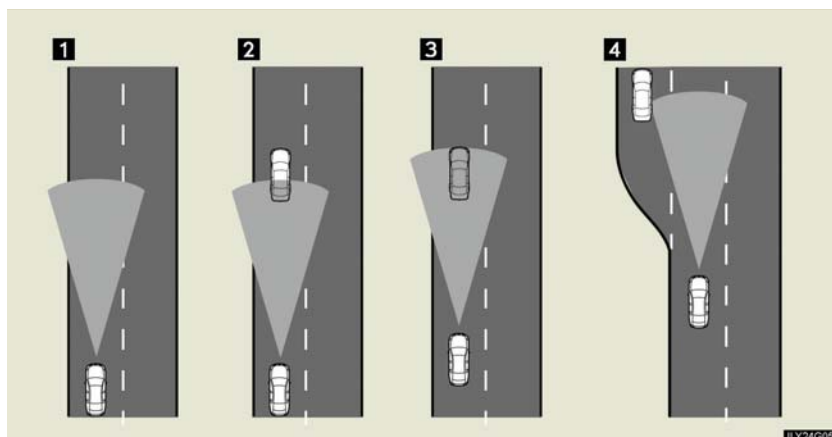
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無、先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなどで十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ、警告ブザーで注意を促します。(→ P. 275)

■ モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすことはできません。システムをOFFにしてから再度操作してください。

■ 設定条件について

- シフトレバーがD、またはSの「4」・「5」・「6」・「7」・「8」(GS460) / 「4」・「5」・「6」(GS350) のとき設定できます。
- 車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 車速が 40 km/h 以下になった
- 車が横滑りして S-VSC が働いた
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして S-VSC が働いた

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→ P. 143) (時速 80 km/h で走行している場合)

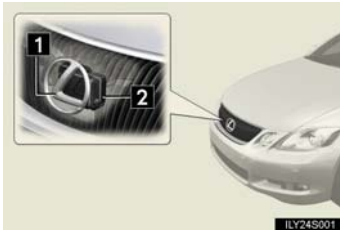
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

 **警告****■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 145）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき



警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。

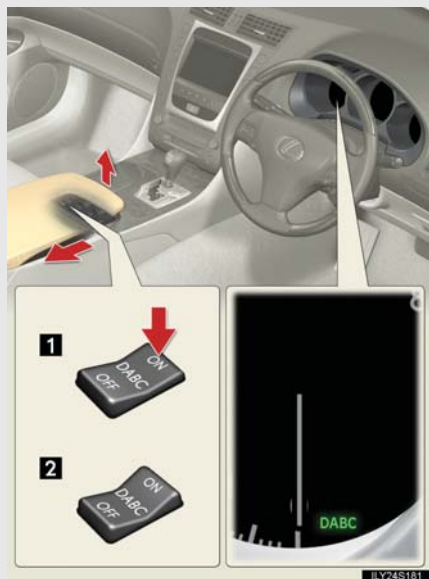
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付け
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

DABC (ドライバーアシストブレーキングコントロール) *

通常走行において、レーダーセンサーにて検知した自車線上の先行車との車間距離や相対速度をもとに、必要に応じて緩やかなブレーキをかけ、車両を減速させます。

スイッチ操作にて DABC を切り替えることができます。



1 ON

2 OFF

DABC 作動中にスイッチを OFF にした場合、制御後に機能を停止します。

車間距離が十分に確保できないときは、DABC による緩やかなブレーキ制御では減速しきれないので、運転者判断によるブレーキ操作が必要となります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動を中止する条件

DABC は運転者の操作を優先しているため、運転者がアクセルやブレーキを操作しているときは作動しません。また、以下のときは作動を中止します。

- DABC によるブレーキ制御中にアクセルペダルを踏んだとき
- DABC によるブレーキ制御中にブレーキ操作をしたとき
- 車速が 15 km/h 未満になったとき
- レーダークルーズコントロール*を ON にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

■ 先行車以外を検知する場合

道路形状（カーブなど）や車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車や周辺のものを検知し、ブレーキがかかってしまう場合があります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 **警告**
■ DABC をお使いになる前に

DABC を過信しないでください。

- DABC は先行車との車速差を徐々に減らすことを目的とした減速制御であり、車間制御機能及び接近警報はありません。また、車両を停止させるまでの減速機能はありません。状況に応じた運転者判断のブレーキ操作が必要となります。
- 前方不注意を補助する装置ではありません。
常に先行車や周囲の状況に気を付けた安全運転をお願いします。

■ 追従先行車との車速差が小さい場合

DABC は作動しません。常に先行車に気を付け、必要に応じたブレーキ操作により車間距離を確保した運転をお願いします。

■ 停車中の車両や自車速より極端に遅い車両がいる場合

DABC は作動しません。信号待ちの車両、渋滞の最後尾で停止した車両などには十分注意してください。

■ 先行車が間近で割り込んできたり、自車線の端を二輪車が走行している場合

検知が遅れたり、検知できないために、DABC が作動しないおそれがあります。常に先行車や周囲の状況に気を付けた安全運転をお願いします。

■ 先行車を正しく検知できない場合

以下の場合、DABC が作動しなかったり、制御を保てなくなるおそれがあります。常に先行車や周囲の状況に気を付けて運転してください。

- 先行車や他の車線の車が路上の水や雪などをまき上げて走行しているとき
- 先行車が空荷のトレーラーなど極端に車両の後端面積が少ないとき
- トランクやリヤ席に極端に重い荷物を積んだとき
- 急カーブを走行しているとき

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白（黄）線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報を用いて注意を促します。

■ 車線維持支援機能

車線の中央付近を走行する際に、小さい力の範囲で操舵力を付加することにより運転者のハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能作動中は体感警報は作動しません。

■ 設定のしかた

白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が自動的に作動します。



- 1 インジケータ
- 2 マルチディスプレイ
- 3 LKA スイッチ

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



設定

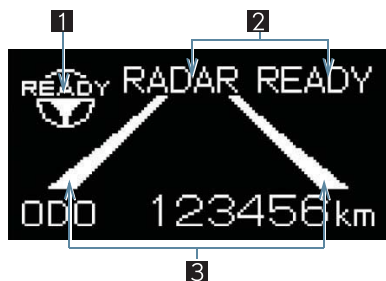
解除するには再度スイッチを手前に引きます。

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が約 50 ~ 120 km/h	車速が約 65 ~ 100 km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が64 km/h以下で車間制御走行しているとき	○	×
	ON 設定車速が65 km/h以上で車間制御走行しているとき	○	○

マルチディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



1 ハンドル表示

ハンドル表示 + READY という表示が出ているとき：スイッチ操作により、車線維持支援機能が開始可能な状態
 ハンドル表示のみのとき：車線維持支援機能が作動中

2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している（このときピピッというブザーが鳴ります）
 線が太いとき：車線逸脱警報機能が作動中

車線維持支援機能が作動中



 知識**■機能の一時解除**

以下のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- 作動条件以外の車速になったとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ワイパースイッチを LO（低速）または HI（高速）にしたとき（ブザーあり）
レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、解除時のブザーが鳴らないときがあります。
- 車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき（ブザーあり）

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、ピピッとブザー音が鳴り、マルチディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。ただし路面状況等により、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車するとき、車内が極低温になったとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下、または上昇し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 160）の温度が適温になると作動開始となるので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。



■ **LKA をお使いになる前に**

LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■ **LKA を OFF にしていただきたい状況**

以下の状況などでは誤った白（黄）線を認識し、適切に機能せずに思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ポールなどに反射テープが巻かれているとき
- 壁などに白（黄）線と見間違えるような模様が描かれているとき

 警告

■ 正しく作動させるには

以下の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

- 白（黄）線がなかったり、片側のみするとき
- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光、照り返しなどで白（黄）線が見えにくいとき
- コンクリート路などの明るい路面を走行するとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 分岐路・合流路などを走行するとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線とまぎらわしい線が見えるとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- ガードレール、縁石、反射ポール等の構造物がある場合
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 対向車のヘッドライト光がカメラに入射した場合
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 道路に横断勾配があるとき
- タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着したとき
- トレーラーを装着しているとき

 注意

■ 白線認識用カメラ



LKA の故障や誤作動を避けるために、以下の
ことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- インナーミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシール等を貼らない

NAVI・AI-AVS (AVS: アダプティブバリアブルサスペンションシステム)

路面の状態や走行状況に合わせてショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御するシステムです。

走行環境に合わせてNORMALモード、SPORTモードより選択できます。選択したモードに従い、VGRS (GS460)・EPS・アクティブスタビライザー*と連動して車両姿勢を良好な状態に保ちます。



1 SPORT モード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

メーター内のAVSスポーツモード表示灯が点灯します。

2 NORMAL モード

通常の走行に適しています。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ NAVI 協調機能について

- ナビゲーションの道路コーナー情報に基づいて、旋回直前にショックアブソーバーの減衰力を高めることにより、コーナーリング性能を向上させます。
ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路にて制御を実施します。
- センサーにより感知した路面の段差などの情報を地図に記録し、次から同じルートを走る際には、そのデータを参照した最適な減衰力制御によって、なめらかな乗り心地をもたらします。
ナビゲーションが高速道路を走行していると判断しているときで、SPORT モードを選択しているときのみ学習結果を反映した制御を行います。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に後輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）（GS460）

車速やハンドルの動きに合わせてホイールが切れる角度を調整します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブスタビライザーサスペンションシステム*

ハンドル操作量や AVS の選択モードなどに応じて、コーナリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、TRC、S-VSC、ヒルスタートアシストコントロール、EPS、VGRS *を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ、エンジン出力、車輪の動きを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 170

* : グレードで異なる装備やオプション装備

S-VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車両が横すべりしそうになったとき、後輪 (FR 車) または前後輪 (AWD 車) が空転したとき、坂道発進をしたときは、S-VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

S-VSC の作動時、ブザー (断続音) が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、ストップライトとハイマウントストップライトが点灯します。

GS460 : ABS 作動時もスリップ表示灯が点滅します。

TRC や S-VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や S-VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押します。

マルチディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と S-VSC を停止するには



TRC と S-VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ OFF 表示灯が点灯し、マルチディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

 知識

■ TRC や S-VSC の自動復帰について

TRC や S-VSC を作動停止にしたあと、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と S-VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC OFF スイッチを押しても、車速が 50 km/h を超えた場合は TRC は作動を再開しません。

■ TRC と S-VSC OFF の作動制限

TRC と S-VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS ・ ブレーキアシスト ・ S-VSC ・ TRC ・ ヒルスタートアシストコントロール ・ VGRS (GS460) の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- システムが車両の後退を検知したとき
- シフトレバーがDまたはSの位置にあるとき
- GS350: ブレーキペダルが踏まれていないとき

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるためEPSの効果が下がり、ハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■GS460：VGRSの作動が停止する場合

以下の状況ではVGRSが作動を停止することがあります。

- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けたとき
- 30°C以下でエンジンを始動し直したあと

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

S-VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

 **警告****■ TRC や S-VSC を OFF にするときは**

TRCやS-VSCは自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、S-VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や S-VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（タイヤについて→ P. 218）異なったタイヤを装着すると、ABS・S-VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響を及ぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

衝突を予知して、乗員のけがや車両の損傷を軽くするためのシステムです。運転者のブレーキ操作に連動して作動する方式（ブレーキ連動方式）と、レーダーセンサーにより、前方の障害物との衝突を予知して作動する方式（レーダー方式）の2つの方式があります。

■ ブレーキ連動方式*

運転者のブレーキペダルの踏み込み速度や量から、ブレーキ操作が緊急だと判断されたとき、シートベルトをすばやく引きもどし、プリテンショナー（→ P. 54）の効果を高めます。また、車が横すべりしたときも同様に作動します。

■ レーダー方式*

● プリクラッシュシートベルト

衝突が避けられないと判断したときにプリテンショナー（→ P. 54）の効果を高めると同時に、シートベルトをすばやく引きもどし、拘束力を高めます。センサーが障害物を検知しない場合でも、急ブレーキをかけたときや、車が横すべりしたときも、同様に作動します。

● プリクラッシュブレーキアシスト

衝突が避けられないと判断したときにブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

● プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いと判断したときに警告灯・警告表示・ブザーで危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキをかけて、衝突速度を低減します。スイッチ操作により、プリクラッシュブレーキを OFF にすることができます。（→ P. 171）

● サスペンションコントロール（AVS）

衝突が避けられないと判断したときに NAVI・AI-AVS（→ P. 161）の動きを利用して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むのを抑えます。

● ドライバーモニター*

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていない場合に、PCS の警報を前出しして、早期に危険を知らせます。さらに、状況によっては、警報ブレーキが作動します。（→ P. 173）

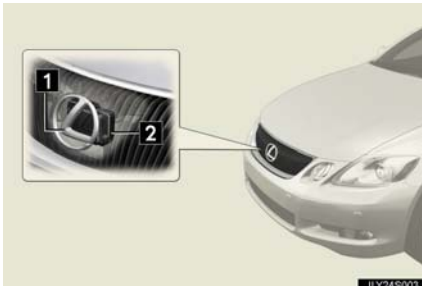
* : グレードで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切り替え



- 1 プリクラッシュブレーキ ON
 - 2 プリクラッシュブレーキ OFF
- OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

プリクラッシュセンサー（レーダー方式のみ）

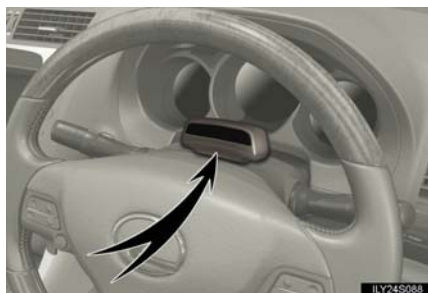


レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速、進路から衝突する可能性を事前に判断します。

- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー

- ▶ レーンキーピングアシスト装着車
レーダーセンサーに加え、白線認識用カメラの映像からも衝突の可能性を検知します。(→ P. 160)

ドライバーモニターカメラ*



運転者の顔の向きを検知し、正面を向いていない状態をシステムが判断します。

* : グレードで異なる装備やオプション装備

 知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトを付けている

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー方式）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトを付けている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た対向車か障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件（レーダー方式のみ）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件（レーダー方式のみ）：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロール（AVS）の作動条件（レーダー方式のみ）：

- ・ 自車速度が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30 ～ 40 km/h 以上

● 警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車のみ）：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 正面を向いていないと判断したとき
- ・ 自車速度が約 40 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 40km/h 以上
- ・ ステアリング回転中でないとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき（レーダー方式のみ）

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 細い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近付いたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。

■レーダーセンサーとグリルカバーについて（レーダー方式のみ）

レーダーセンサーやフロントグリルのカバーの前後面が雪や氷などで汚れた場合、PCS 警告灯が点滅し、マルチディスプレイに「PCS 現在使用できません」と表示されます。雪や氷などの汚れを取り除き、走行すると警告灯は消灯します。

■プリクラッシュシートベルトが作動し、シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は

車を安全な場所に停車して、シートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 271, 275）

 **警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

PCS は運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

PCS は、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

PCS は、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

PCS は、検知する前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。



警告

■レーダーセンサーの取り扱い

PCS が効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- レーダーセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- レーダーセンサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

■顔向き判定について（ドライバーモニター装着車）

以下のときは正常に顔向き判定ができない場合があります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき
(カメラの前にものを置くなど)
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき

 警告**■ ドライバーモニターカメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）**

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷付けたり、持ち上げたり、引っぱったりしない
- 走行中はカメラをさわったりしない
- カメラをぬらしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、汚れ、シール貼り等がないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、覆ったりしない

 注意**■ ドライバーモニターカメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）**

- 傷をつけないよう、やわらかい布で軽く拭いてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼって拭き取り、その後、乾いた布で拭いてください。
- ベンジン・シンナー・ガラスクリーナー・ワックスなどを使用しないでください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする



警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、タイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下を引き起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル (→ P. 310)
 - ・ 冷却水 (→ P. 312)
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ (4 輪) やタイヤチェーン (後部タイヤ用) を用意してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、チェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。(→ P. 314)
(タイヤについての詳しい説明は P. 218 をご覧ください。)

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

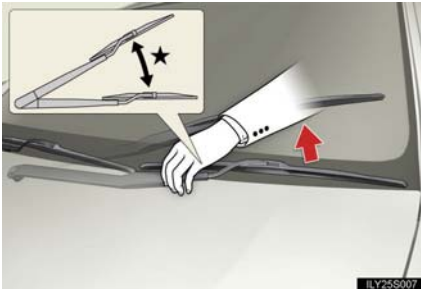
■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

ワイパー停止位置の切り替え（寒冷地仕様車）

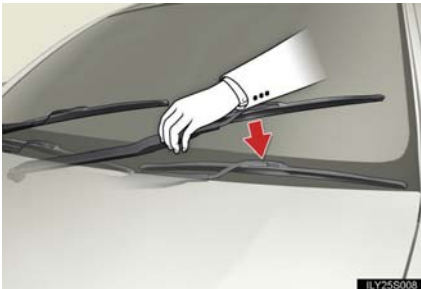
積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切り替えておきます。

ワイパーアームをしっかり持ってワイパー停止位置の切り替えを行ってください。



★ 10 cm 以上

積雪時の停止位置にする：
ガラス面にそって引き上げます。



通常の停止位置にもどす：
フック上部を手で押します。
ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切り替えてから立ててください。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
(タイヤについての詳しい説明は P. 218 をご覧ください。)

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **タイヤを修理・交換するときは**

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け、取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
(タイヤについての詳しい説明は P. 218 をご覧ください。)

■ **タイヤチェーンの装着**

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	186
・ インテリアライト	187
・ パーソナルライト	188

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	189
・ グローブボックス	190
・ コンソールボックス	191
・ 小物入れ	192
・ コインホルダー	192
・ カップホルダー	193
・ ドアポケット	194

3-3. その他の室内装備の使い方

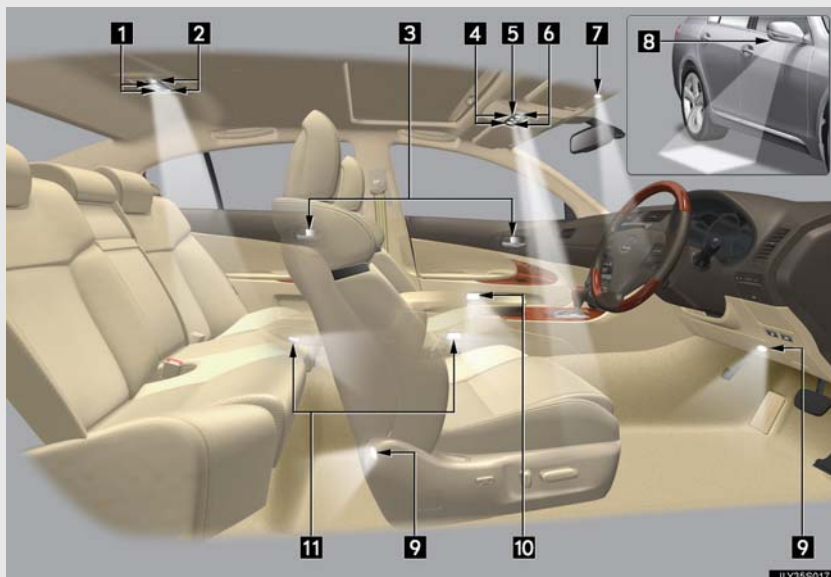
サンバイザー	195
バニティミラー	196
外気温度表示	197
灰皿	198
シガレットライター	199
アクセサリースOCKET	200
シートヒーター& ベンチレーター	201
リヤアームレスト	203
リヤサンシェード	204
フロアマット	206
トランク内装備	207

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

イルミネテッドエントリーシステム：

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“エンジン スタート ストップ” スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯、消灯します。



- 1 リヤインテリアライト
- 2 リヤパーソナルライト (→ P. 188)
- 3 ドアハンドル照明
- 4 フロントインテリアライト (→ P. 187)
- 5 シフト照明
- 6 フロントパーソナルライト (→ P. 188)
- 7 ステアリング照明
- 8 ドアミラー照明
- 9 足元照明
- 10 フロントスカッフ照明
- 11 ドアカーテシライト

メーター照度調整スイッチ (→ P. 120) を最も暗く設定すると、シフト照明と足元照明が消灯します。

インテリアライト

知識

■ 自動消灯機能

- 半ドア状態でインテリアライトスイッチが DOOR のときに、インテリアライト、パーソナルライト、ステアリング照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 318)

インテリアライト



- 1 ON
- 2 OFF
- 3 DOOR (ドア連動)

イルミネーテッドエントリーシステムにより各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

パーソナルライト

▶ フロント



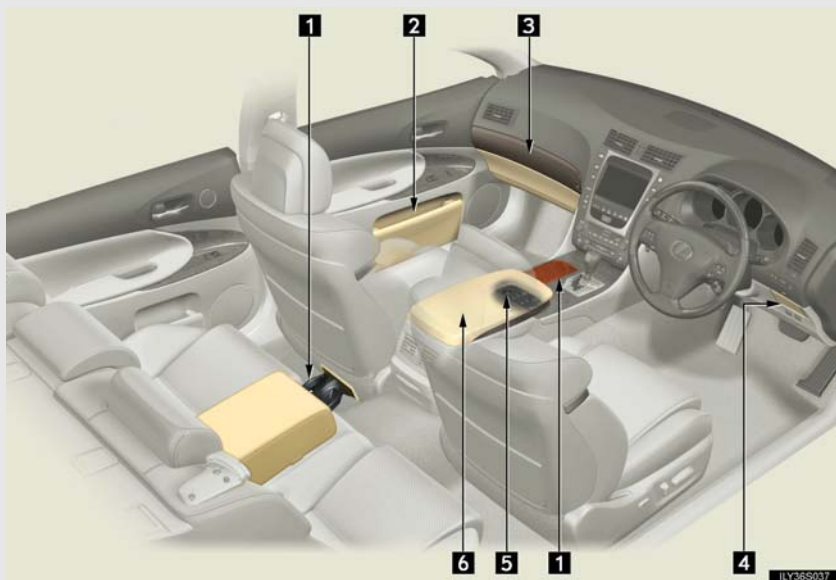
ON / OFF

▶ リヤ



ON / OFF

収納装備一覧



- 1 カップホルダー
- 2 ドアポケット
- 3 グローブボックス
- 4 小物入れ
- 5 コインホルダー*
- 6 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

 知識**■ グローブボックスライト**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のライトが点灯します。

■ トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→ P. 40）

 **警告****■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

コンソールボックス



- 1 ノブを握ってロック解除
- 2 スライド
- 3 開く

アームレストをいちばん後ろまでスライドすると開きます。

 知識

■ コンソールボックスライト

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のライトが点灯します。

 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ



押すと開きます。

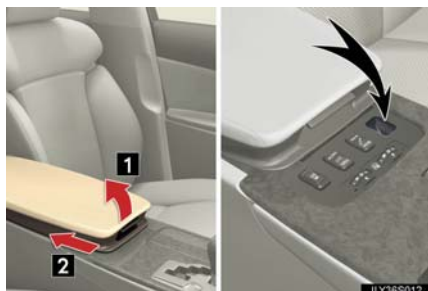
警告

■ 走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。

急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー*



- 1 ノブを握ってロックを解除する
- 2 スライドさせる

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

カップホルダー

カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーのフタの左側を押し
て開ける

▶ リヤ



リヤアームレストのカップホルダー
を押し開ける

3

室内
装
備
の
使
い
方

警告**■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故の際に落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために
温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたるなどして、思わぬけがをするおそれ
があります。

注意**■ カップホルダーの破損を防ぐために**

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

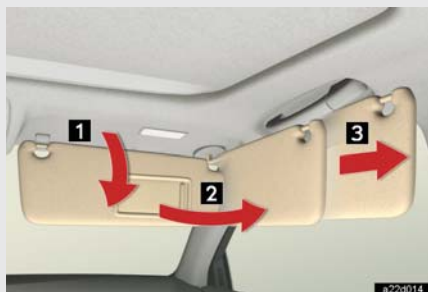
ドアポケット

フロントドアのポケットは開閉することができます。

警告**■ 走行中の警告**

ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットに体があたったり、収納していたものが飛
び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サンバイザー



- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 横にした状態から後ろへ引く

3-3. その他の室内装備の使い方

バニティミラー



サンバイザーを下ろし、カバーをスライドして開けます。

カバーを開けるとライトが点灯します。

3-3. その他の室内装備の使い方

外気温度表示

-40°C から 50°C の間で表示されます。



知識

■ 外気温度が表示されるとき

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ --- が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ マルチディスプレイ上で表示させるには

→ P. 127

■ 表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

灰皿

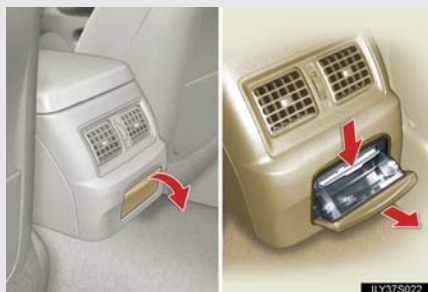
▶ フロント



フタをスライドして開けます。
閉めるときはもう一度フタを押
します。

取りはずすときは、レバーを押しま
す。

▶ リヤ



フタの上部を引いて開けます。

取りはずすときは、プレートを押さ
えて手前に引きます。

▲ 警告

■ 使用後について

フタを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急ブレーキにより、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

シガレットライター



- 1 灰皿のフタを開けて、シガレットライターを押し込む
もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを挿し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用後について

灰皿のフタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急ブレーキにより、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



知識

■ 使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

12 V 10 A を超えないようにしてください。

■ 12V バッテリーあがりを防ぐために

エンジンを停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター&ベンチレーター*

シートをあたためたり、シートから風を出して通気を良くできます。

■ シートヒーター



1 シートをあたためる

インジケーター（赤）が点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

■ シートヒーター&ベンチレーター



1 シートから風を出す

インジケーター（緑）が点灯します。
大きい数字に合わせるほど風量が強くなります。

2 シートをあたためる

インジケーター（赤）が点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを 0 に合わせてください。インジケーターが消灯します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 **警告**

■ やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方はとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 **注意**

■ シートヒーター&ベンチレーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 12V バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときは、ダイヤルを 0 の位置にしてください。

3-3. その他の室内装備の使い方

リヤアームレスト



引き出して使用します。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

リヤサンシェード*

スイッチ操作でリヤサンシェードを上昇／下降できます。



1 上昇／下降

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、下記のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- シフトレバーを P に入れる
- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にした後、約 60 秒間リヤサンシェードを上昇／下降できます。

■ 販売店で設定可能な機能

シフトレバーを R にしてからリバース連動機能が働くまでの時間を変更できます。
(カスタマイズ一覧→P. 318)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 **警告****■ リヤサンシェード作動中は**

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 **注意****■ 12V バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態でリヤサンシェードをくり返し操作しないでください。

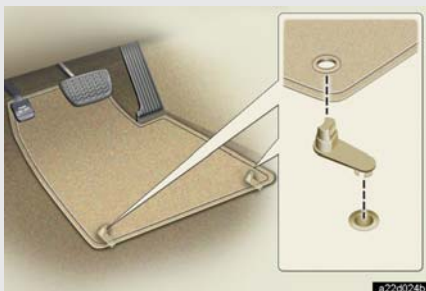
■ 正常に機能させるために

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間操作を続けない

フロアマット

フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

警告

■フロアマットを敷くときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- フロアマットを裏返して使用しない
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

3-3. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

■ 荷物固定用フック



フックを使って荷物を固定することができます。

■ 買い物フック



■ 救急箱固定用バンド



- 1 緩む
- 2 締まる

■ ラゲージマット

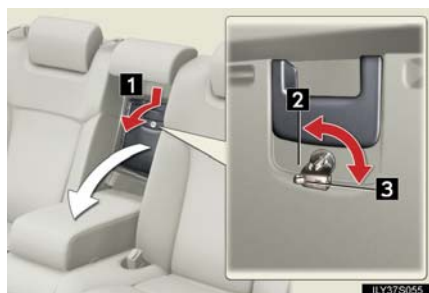


レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。



レバーをトランクの外枠にかけることができます。

トランクスルー



リヤアームレストを引き出します。

- 1 開ける (ハンドルを押し下げる)
- 2 メカニカルキーでアンロックする
- 3 メカニカルキーでロックする

 **警告**

- 荷物固定用フックを使用しないときは
もとの位置に格納してください。

 **注意**

- トランクを開めるときは
ラゲージマットのレバーを外枠にかけたままにしないでください。
ラゲージマットが破損するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	212
内装の手入れ	215
タイヤについて.....	218

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	227
ガレージジャッキ.....	230
エンジンルームカバー	232
電球（バルブ）の交換	234
ヒューズの点検、交換	242
電子キーの電池交換	258
ウォッシュ液の補給	260

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

ボデーの表面のよごれを落としても水が球状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかけてください。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ドアミラーを格納してください。また、給油口がしっかりと閉まっていることを確認してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ、リヤスポイラー*が引っかかり洗車できない場合や傷ついたり、破損するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドアのすき間、給油口に近づけすぎないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。
近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。傷つきやすいので研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、以下のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
 - ・ よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- シリコンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- 晴天時に太陽光を1・2日間あてる

■塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しくよごれたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

警告

■ **洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■ **塗装の損傷を避けるために**

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は、使用しないでください。

■ **ライトの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスかけをおこなわないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ **自動洗車機を使用するときは**



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、よごれをふき取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などで、大まかなよごれを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてからよごれを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗浄

カーベットの常には乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットの広げ、円を描くように塗りこんでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ グローブボックス、コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。



警告

■ 車両への水の浸入

- 床・トランク内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 81)
電气的不具合により、SRSエアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
- シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

■ 革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさない、特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた タイヤについて

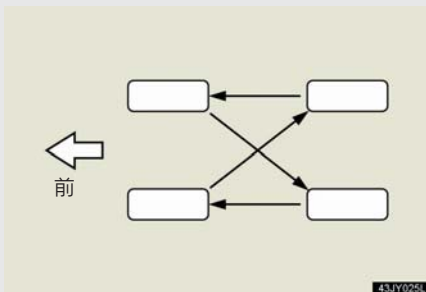
タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000 kmごとに、AWD車は5,000 kmごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図のようにタイヤを交換します。

■ タイヤ空気圧警報システム

タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが
ついています。

ホイールからタイヤを脱着する際はまずバルブ／送信機をはずして
ください。その際は、バルブ／送信機が損傷しないように注意が必要です。

ランフラットタイヤ*

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、90 km/hを超えない速度で、約 160 km まで走行することが可能です。(ただし、気候や走行状況などによっては 90 km/h までスピードを出せないこともあります。)



ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に RFT または DSST というマークがついています。

160 km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付け替えたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。バルブ／送信機を装着するには 3 つの方法があります。

- もとのホイールからバルブ／送信機をはずし、新しいホイールに付け替える
- ホイールはバルブ／送信機がついたままのものを使い、タイヤだけを交換する
- ホイールとバルブ／送信機ともに新しいものに替える

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 221)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合は初期化してください。
システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

手順 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

手順 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 221, 314)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態でおこなってください。

手順 3 エンジンを始動する

手順 4



タイヤ空気圧を設定する

タイヤ空気圧警告灯が3回点滅し、マルチディスプレイに「タイヤ空気圧システム初期化受けました」と表示されるまで、スイッチを押したままにします。

設定が完了するまでには、数分かかります。エンジンを作動させたまま2～3分待機し、その後停止(“エンジンスタートストップ”スイッチOFF)してください。

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードの登録・選択

■ ID コードの登録

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが付いています。ID コードは車 1 台につき 2 セット分のタイヤを登録できます。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくとう便利です。

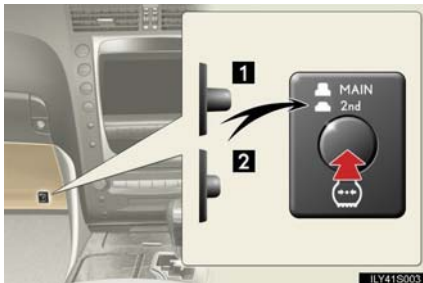
“MAIN”：購入時に搭載されていたバルブ／送信機の ID コード

“2nd”：2 セット目のバルブ／送信機の ID コード

ID コードの登録は、レクサス販売店でおこなってください。一度登録した後は、レクサス販売店にてタイヤやホイールを交換するたびに設定を変更してください。

■ ID コードの選択

タイヤを交換したときは、登録してある ID コードから、装着したタイヤセットに合った ID コードを選択してください。選択が正しくないと、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しくなくなります。



1 MAIN

2 2nd

知識

■ タイヤ空気圧



前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3kg/cm²)

応急用タイヤ*：420 kPa (4.2 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側の「タイヤ空気圧」ラベルで確認することができます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ **タイヤ関連の部品を交換するときは**

タイヤ・ホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ **超偏平タイヤ（245/40R18 93Y）について**

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力が低下します。冬用タイヤかチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ **超偏平タイヤ（245/40R18 93Y）の空気圧点検**

超偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1カ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ **タイヤがパンクした場合の対処法**

標準タイヤの場合とランフラットタイヤの場合では対処が異なります。

(→ P. 287, 295)

■ **ランフラットタイヤの取り扱いについて**

- ランフラットタイヤは車種特有のため、他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤと標準タイヤを混ぜて使用しないでください。
- レクサス指定の純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能が発揮されないおそれがあります。

■ **正しくタイヤ空気圧警報システムを初期化するには**

空気圧を必ず指定された基準圧にして初期化してください。

■ **タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき**

通常2、3分で終了します。ただし、以下の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときはレクサス販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が点滅せず、マルチディスプレイにメッセージが出ない場合（走行中は初期化を受け付けません。）

**警告****■ 日常点検について**

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
- タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点について点検してください。
 - ・ タイヤの空気圧
 - ・ タイヤの亀裂・損傷の有無
 - ・ タイヤの溝の深さ
 - ・ タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

■ 指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または P. 314 で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*}によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

日常点検で、スペアタイヤ*も含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

^{*}高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

■ 異常があるタイヤの使用禁止

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



警告

■ タイヤのサイズ、種類について

- タイヤはすべて指定サイズで、同一のサイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあります。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響をあたえるのでタイヤ空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ・ 4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ・ 空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションをおこなってください。（→ P. 218）
- ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。
- 指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があります。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ABS ・ ブレーキアシスト ・ D A B C * ・ S-V S C ・ L K A * ・ NAVI・AI-AVS ・ レーダークルーズコントロール* ・ クルーズコントロール* ・ V G R S * 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T R C ・ V D I M ・ P C S ・ A F S ・ G P S ボイスナビゲーション ・ タイヤ空気圧警報システム ・ A V S ・ E P S
--	--

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ 冬用タイヤについて

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

■ 摩耗限度について

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

 注意

■ 超扁平タイヤ（245/40R18 93Y）について

超扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・バルブ／送信機の修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールをお使いください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。



注意

■ **パンクしたタイヤへのパンク修理剤の使用禁止**

タイヤ空気圧バルブ／送信機が損傷します。

■ **タイヤ空気圧が低いとき**

走行を続けしないでください。

タイヤおよびホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

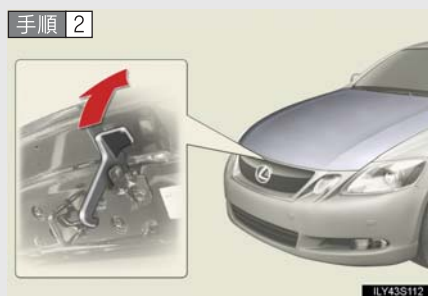
ボンネット

■ ボンネットの開け方

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネット
を開ける

⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

■ エンジンルームを点検するときは

- 必ず“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。
ベルトやファンなどの回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、エンジンルーム内が冷えてから点検をおこなってください。熱くなった部品などでやけどをするおそれがあります。
- 火気をエンジンや燃料配管に近づけないでください。
爆発など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを開めるときは



ボンネットを開めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

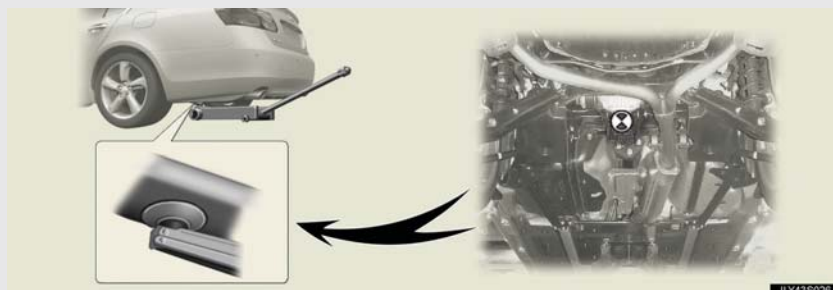
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドまたは硬い水平面を使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下に物を置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

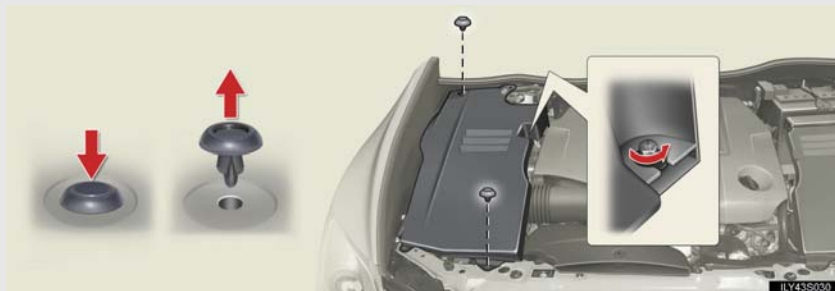
■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 前側



▶ 運転席側

前側エンジンルームカバーをはずしてからおこないます。



▶ 助手席側

前側エンジンルームカバーをはずしてからおこないます。



■ クリップの取り付け方



- 1 広げる
- 2 中央部を引き出した状態で、押し込む
- 3 押す

⚠ 警告

■ エンジンルームカバーを取りはずすときは

カバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをすることがあります。

⚠ 注意

■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球のワット数を確認してください。（→ P. 314）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→ P. 232

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト (ハイビーム)

手順 1



ソケットを取りはずす

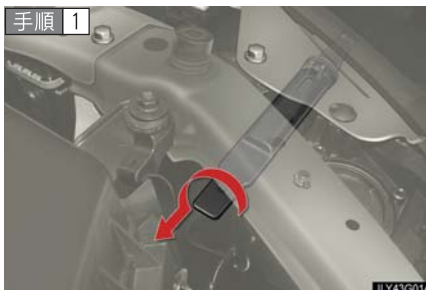
手順 2



電球を取りはずす

■ 車幅灯

手順 1



ソケットを取りはずす

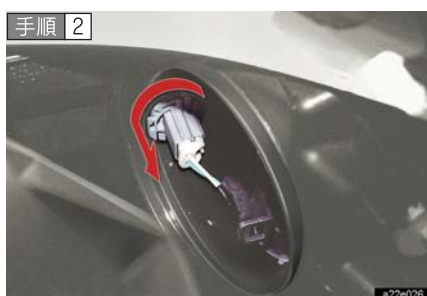


電球を取りはずす

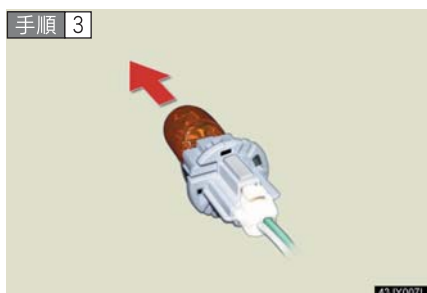
■ フロント方向指示兼非常点滅灯



カバーを取りはずす



ソケットを取りはずす

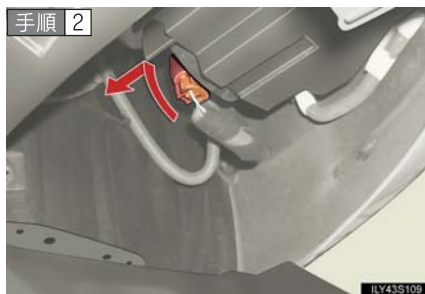


電球を取りはずす

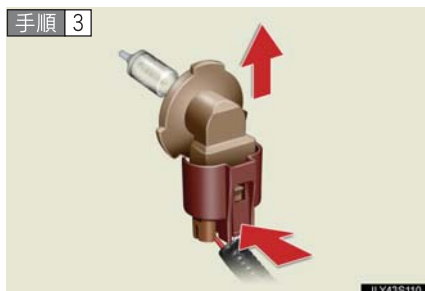
■ フロントフォグライト



フェンダーライナー側の固定ボルトとフォグライト下側のカバーの固定ボルト、クリップをはずし、カバーをめくる

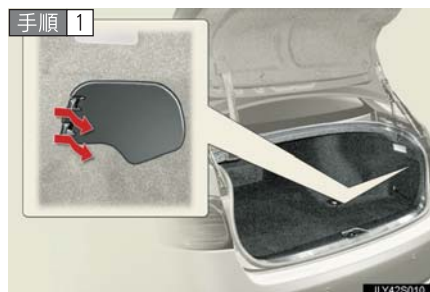


ソケットを取りはずす

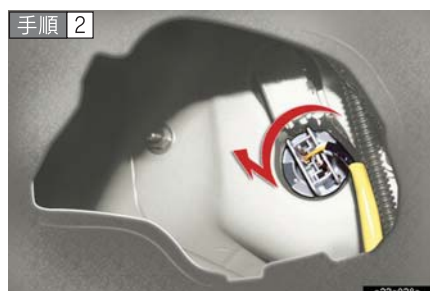


電球を取りはずす

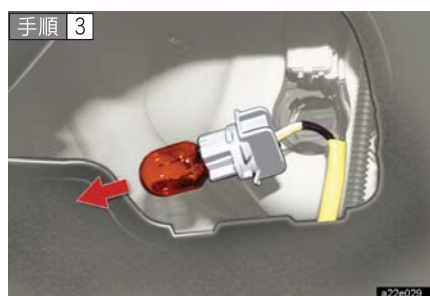
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯



トランクを開け、カバーを取りはずす



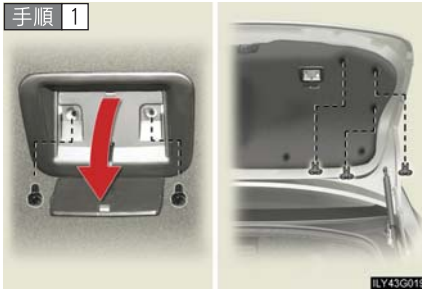
ソケットを取りはずす



電球を取りはずす

■ 後退灯、リヤフォグライト*

手順 1



トランクを開け、トランクグリップを取りはずし、トランクパネルカバーのクリップを取りはずす

手順 2



トランクパネルカバーの一部をはずし、ソケットを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

4

お
手
入
れ
の
し
か
た

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ その他

以下のライトが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 尾灯
- 番号灯

知識

■ 助手席側のヘッドライト・車幅灯・フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは



ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動させると、交換しやすくなります。

交換後は、必ずウォッシャー液補給口をボルトで固定してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常に戻ると再点灯します。

**警告****■ 電球を交換するときは**

- ライトは消灯して、エンジンを停止してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電による生命にかかわる重大な傷害の原因となります。

■ ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ LED ライトについて

尾灯、制動灯、サイド方向指示兼非常点滅灯、番号灯、ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも不灯になったときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトが点灯しないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

■ エンジンルーム



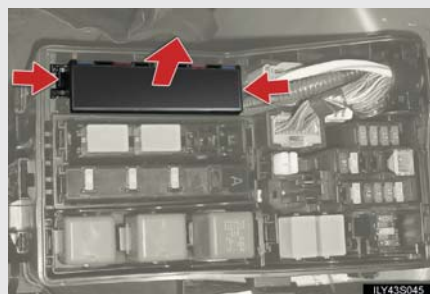
1. エンジンルームカバーを取りはずす (→ P. 232)

2. クリップをはずし、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

1 タイプ A

2 タイプ B

■ フロントコントローラーの取りはずしかた



左右のツメを押しながら引き上げる

■ 運転席足元



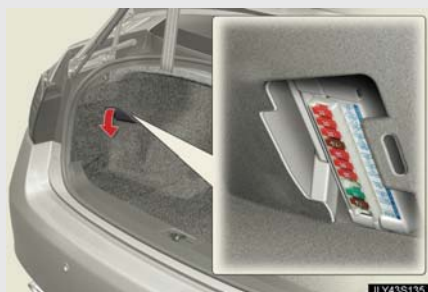
カバーを取りはずす

■ 助手席足元



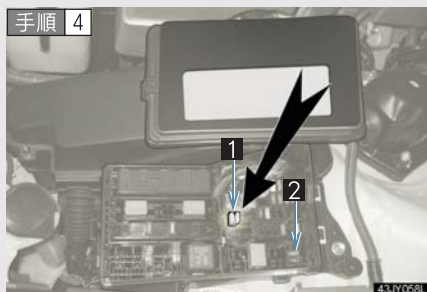
カバーを取りはずす

■ トランク



カバーを開ける

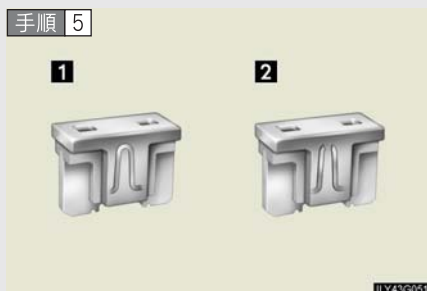
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」
（→ P. 245）で確認する



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずし、スペアヒューズはエンジンルーム内ヒューズボックスにあります。

- 1 ヒューズはずし
- 2 スペアヒューズ



ヒューズが切れていないか点検する

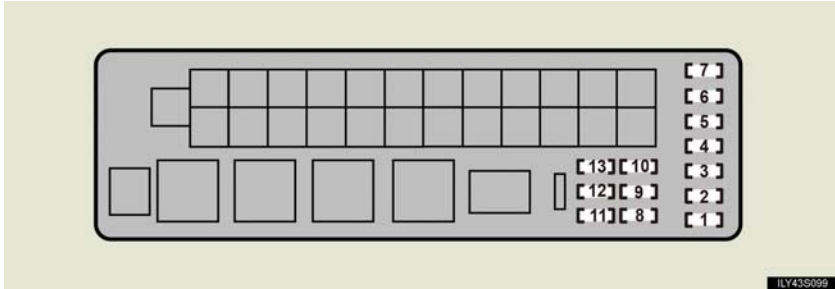
- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（タイプ A）

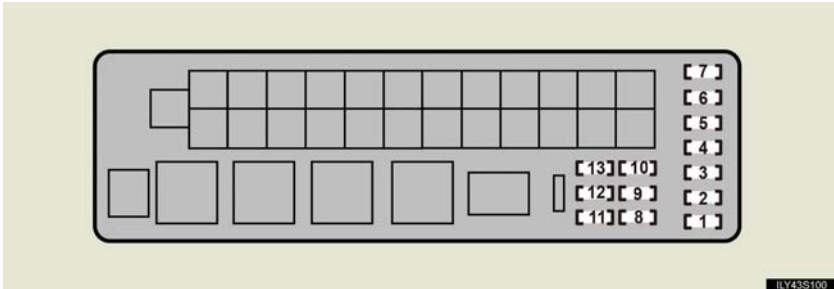
▶ GS460



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-B	10 A	ヘルプネット、VGRS、EPS、運転席シートスイッチモジュール
2	ABS MAIN3	10 A	ECB
3	TURN-HAZ	15 A	方向指示兼非常点滅灯
4	IG2-MAIN	20 A	IG2、GAUGE、IGN
5	RAD NO.2	30 A	オーディオシステム
6	D/C CUT	20 A	DOME、MPX-B
7	RAD NO.1	30 A	オーディオシステム
8	MPX-B	10 A	ボデーECU、フロントコントローラー、ドアコントロールシステム（パワードアロック、ドアカーテシライト、パワーウインドウ、ドアミラー、ミラーヒーター）、パワーシート、ステアリングセンサー、ECB、ステアリングシステム、メーター、コンビネーションスイッチ
9	DOME	10 A	足元照明、バニティライト、メーター、ハンドル照明、ステアリングスイッチ照明、リヤパーソナルライト、シフト照明、フロントパーソナルライト
10	CDS	10 A	CDS
11	ABS MAIN2	10 A	ブレーキシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	ABS NOTOR	30 A	ブレーキシステム
13	ABS MAIN1	10 A	ブレーキシステム

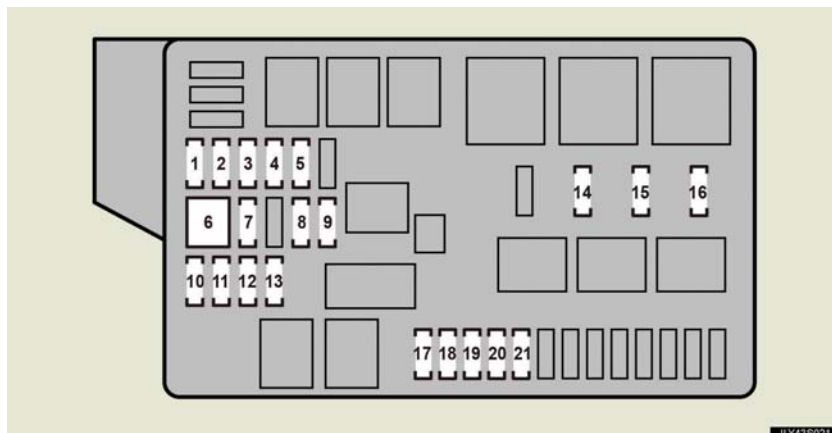
▶ GS350



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1 ECU-B	10 A	ヘルプネット、EPS、運転席シートスイッチモジュール
2 ABS MAIN3	25 A	ブレーキシステム
3 TURN-HAZ	15 A	方向指示兼非常点滅灯
4 IG2 MAIN	20 A	IG2、GAUGE、IGN
5 RAD NO.2	30 A	オーディオシステム
6 D/C CUT	20 A	DOME、MPX-B
7 RAD NO.1	30 A	オーディオシステム
8 MPX-B	10 A	ボデーECU、フロントコントローラー、ドアコントロールシステム（パワードアロック、ドアカーテシライト、パワーウインドウ、ドアミラー、ミラーヒーター）、パワーシート、ステアリングセンサー、ステアリングシステム、メーター、コンビネーションスイッチ
9 DOME	10 A	足元照明、バニティライト、メーター、ハンドル照明、ステアリングスイッチ照明、リヤパーソナルライト、シフト照明、フロントパーソナルライト
10 CDS	10 A	CDS
11 ABS MAIN2	10 A	ブレーキシステム
12 ABS MOTOR	30 A	ブレーキシステム
13 ABS MAIN1	10 A	ブレーキシステム

■ エンジンルーム（タイプB）

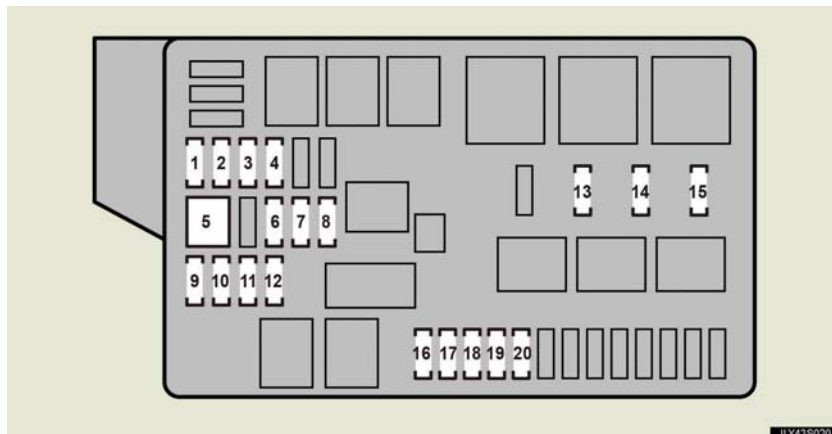
▶ GS460



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称	
1	FR CTRL-B	25 A	H-LP UPR、HORN
2	A/F	15 A	排気システム
3	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
4	ALT-S	7.5 A	充電システム
5	INJ2	25 A	EDU
6	H-LP CLN	30 A	——
7	STB-AM	30 A	アクティブスタビライザーサスペンションシステム
8	DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
9	FR CTRL-AM	30 A	FR TAIL、FR FOG、WASHER
10	IG2	10 A	始動システム、ノイズフィルター
11	EFI NO.2	10 A	燃料システム、排気システム、エンジンコントロールシステム
12	H-LP R LWR	15 A	ヘッドライトロービーム右
13	H-LP L LWR	15 A	ヘッドライトロービーム左
14	F/PMP	25 A	燃料システム
15	EFI	25 A	エンジンコントロールシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	INJ	25 A	エンジンコントロールシステム
17	H-LP UPR	15 A	ヘッドライトハイビーム
18	HORN	10 A	ホーン
19	WASHER	20 A	ワイパー&ウォッシャー
20	FR TAIL	10 A	尾灯
21	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

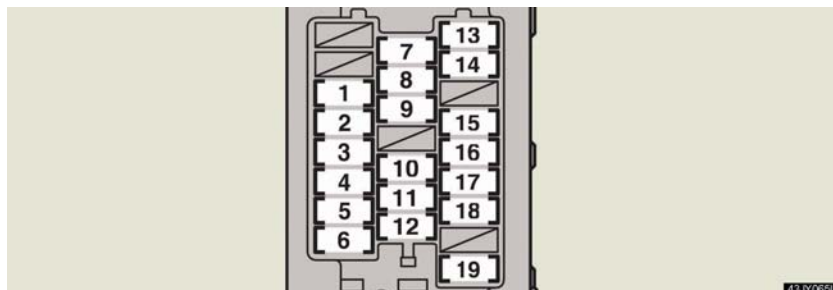
▶ GS350



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR CTRL-B	25 A	H-LP HI、HORN
2	A/F	15 A	排気システム
3	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
4	ALT-S	7.5 A	充電システム
5	H-LP CLN	30 A	——
6	A/C COMP	7.5A	エアコン
7	DEICER	25 A	フロントワイパーテアイサー
8	FR CTRL-AM	30 A	FR TAIL、FR FOG、WASHER
9	IG2	10 A	始動システム、ノイズフィルター
10	EFI NO.2	10 A	燃料システム、排気システム、エンジンコントロールシステム
11	H-LP R LWR	15 A	ヘッドライトロービーム右
12	H-LP L LWR	15 A	ヘッドライトロービーム左
13	F/PMP	25 A	燃料システム
14	EFI NO.1	25 A	エンジンコントロールシステム
15	INJ	20 A	エンジンコントロールシステム
16	H-LP HI	15 A	ヘッドライトハイビーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	HORN	10 A	ホーン
18	WASHER	20 A	ワイパー&ウォッシャー
19	FR TAIL	10 A	尾灯
20	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

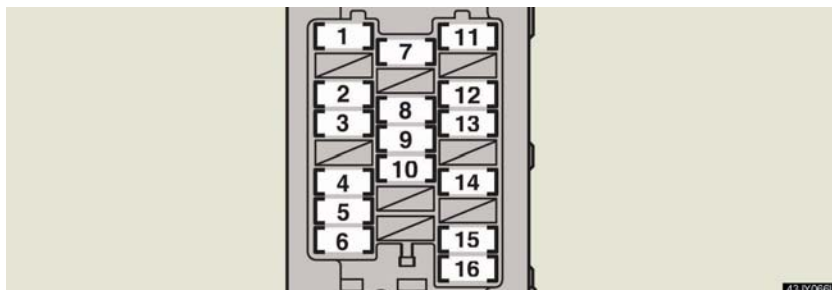
■ 運転席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-IG RH	10 A	ステアリングシステム、コンビネーションスイッチ、ボデー ECU、パワーシート、スマートエントリー&スタートシステム、エアコン、オーディオシステム、シフトロックシステム
2	FR S-HTR RH	15 A	シートヒータ&ベンチレーター
3	RH-IG	7.5 A	ドアコントロールシステム、シーケンシャルスイッチ、サスペンションシステム、シートヒータスイッチ、キャパシタ、顔向きカメラ、パワーウィンドウ
4	AM2	7.5 A	始動システム
5	FR DOOR RH	20 A	フロントドアコントロールシステム (パワードアロック、ドアミラー、ドアカーテシライト、ミラーヒーター、パワーウィンドウ)、ボデー ECU
6	RR DOOR RH	20 A	リヤドアコントロールシステム (パワードアロック、ドアカーテシライト、パワーウィンドウ)
7	AIR SUS	20 A	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
8	PWR OUTLET	15 A	アクセサリースOCKET
9	CIG	15 A	シガレットライター

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	ACC	7.5 A	ボデー ECU、スマートエントリー&スタートシステム、ヘルプネット、ETC、バックガイドモニター、オーディオシステム
11	IGN	10 A	エンジンコントロールシステム、SRSエアバッグシステム、制動灯/尾灯、ステアリングロックシステム、ブレーキシステム (ECB)、ヘルプネット
12	GAUGE	7.5 A	メーター
13	STR LOCK	25 A	ステアリングロックシステム
14	SECURITY	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム
15	TI&TE	20 A	ステアリングシステム、ボデー ECU
16	AM1	7.5 A	—————
17	STOP SW	7.5 A	制動灯/尾灯、ボデー ECU、LH-J/B、ブレーキシステム (ECB、S-VSC)、オートマチックトランスミッション (GS460)、エンジンコントロールシステム、電源 ECU、シフトロックシステム
18	OBD	7.5 A	オンボードダイアグノーシスシステム
19	FR P/SEAT RH	30 A	パワーシート

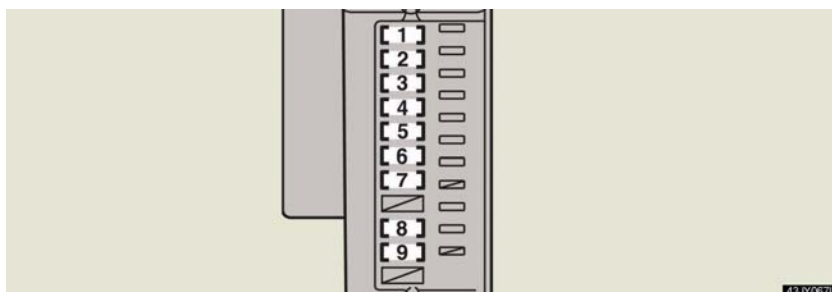
■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR WIP	30 A	ワイパー、ウォッシャー
2	LH-IG	10 A	充電システム、排気システム、リヤウインドウデフォグガー、フロントワイパーデアイサー、クーリングファンシステム、ドアコントロールシステム、非常点滅灯、パワーウインドウ
3	H-LP LVL	7.5 A	AFS、オートレベリングシステム
4	RAD NO.3	10 A	オーディオシステム
5	FR DOOR LH	20 A	フロントドアコントロールシステム (パワードアロック、ドアミラー、ドアカーテシライト、ミラーヒーター、パワーウインドウ)
6	RR DOOR LH	20 A	リヤドアコントロールシステム (パワードアロック、ドアカーテシライト、パワーウインドウ)
7	FR S/HTR LH	15 A	シートヒーター&ベンチレーター
8	ECU-IG LH	10 A	ブレーキシステム (ECB)、VDIM、ステアリングセンサー、クルーズコントロールシステム、EPS、VGRS、バックガイドモニター、AWD システム、フロントコントローラー、オーバーヘッドモジュール
9	FUEL OPN	10 A	給油口オープナー、トランクオープナー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	PANEL	7.5 A	室内照明、DABC スイッチ、シートヒータースイッチ
11	S/ROOF	25 A	ムーンルーフ
12	LH-B	10 A	盗難防止システム
13	TRK OPN	10 A	トランクオープナー
14	TV	7.5 A	ディスプレイ、バックガイドモニター
15	A/C	7.5 A	エアコン
16	FR P/SEAT LH	30 A	パワーシート

■ トランク



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	RR TAIL	10 A	番号灯、尾灯
2	STOP LP R	10 A	ハイマウントストップライト
3	STOP LP L	10 A	制動灯、後退灯
4	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
5	RR-B	10 A	トランクライト
6	RR-IG1	10 A	プリクラッシュセーフティシステム、リヤサンシェード、シートベルトプレテンショナー
7	RR-IG2	10 A	——
8	PSB	30 A	プリクラッシュセーフティシステム
9	RR S/SHADE	7.5 A	リヤサンシェード

 知識**■ ヒューズを交換したあとは**

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 234)
- 取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 12V バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 **警告****■ 車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一時的であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

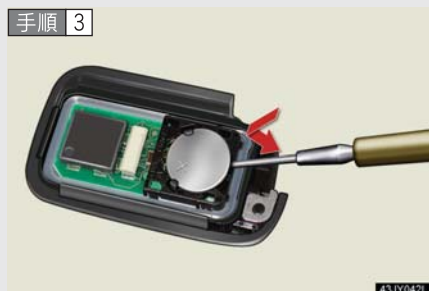
手順 1



手順 2



手順 3



 知識**■ 電子キーの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

 **警告****■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまに触らせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換 ウォッシャー液の補給

■ 液量の確認



液量が LOW 近くにあるときは、ウォッシャー液を補給する

■ 補給のしかた



液量が上限になるまでウォッシャー液を補給する

⚠ 警告

■ 補給時の警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 注意**■ ウォッシャー液のみを使う**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や冷却水などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

非常点滅灯	264
発炎筒	265
けん引について.....	267

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	271
警告メッセージが表示された ときは	275
パンクしたときは (ランフラットタイヤを 除く).....	287
パンクしたときは (ランフラットタイヤ)	295
エンジンがかからない ときは	296
シフトレバーがシフト できないときは.....	297
キーを無くしたときは.....	298
電子キーが正常に働かない ときは	299
12Vバッテリーがあがった ときは	301
オーバーヒートした ときは	304
スタックしたときは.....	307

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

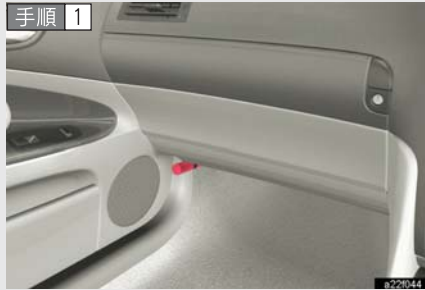
注意

■ 12V バッテリーあがりを防ぐために

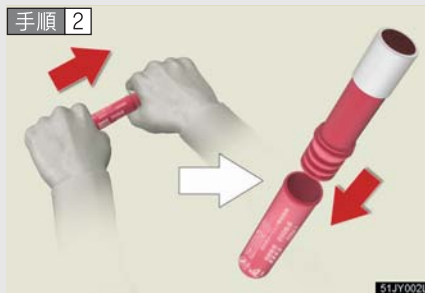
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のふたをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限がきれる前に、レクサス販売店でお求めください。



■ 発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触らせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、けん引の前に必ずレクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

手順 1

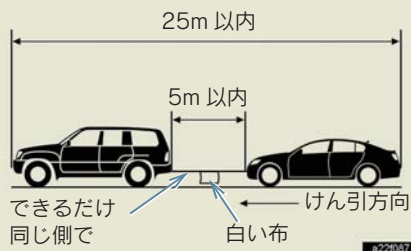


けん引フックを取り付ける
(→ P. 268)

手順 2

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
前進方向でけん引してください。

手順 3



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上

手順 4

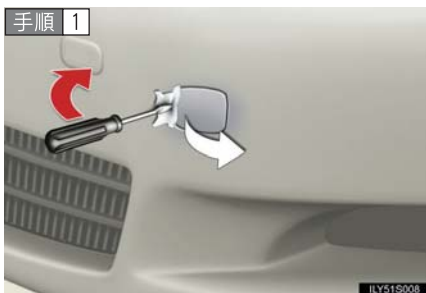
“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON
モードにする

手順 5

シフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてくだ
さい。

けん引フックの取り付け方

手順 1



マイナスドライバーを使ってふたをはずす

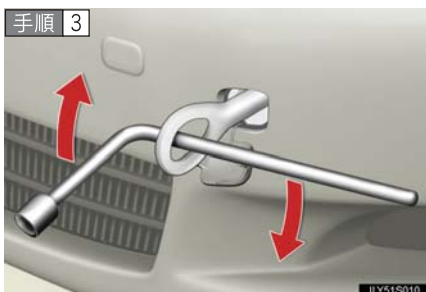
車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

手順 2



けん引フックを穴に挿し込み軽くしめる

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→ P. 287

⚠ 警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

けん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがありますので、しっかりと取り付けてください。

■けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、車両の誤操作を避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害や最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- けん引される車は、慎重に運転してください。

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなります。

■AWD（4輪駆動）車をけん引するときは



4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。



注意

■ 車両の損傷を防ぐために


- けん引時は以下のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ ブレーキ警告ブザー：


ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

→ P. 280

ただちに停車してください。

以下の警告は、車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	電子制御ブレーキ警告灯 (GS460) 電子制御ブレーキシステムの異常
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常
	PCS 警告灯 プリクラッシュセーフティシステムの異常 (プリクラッシュブレーキ OFF 時は点滅します。→ P. 171)
	スリップ表示灯 S-VSC の異常 (S-VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロール作動時は点滅します。→ P. 164)

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 12 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	タイヤ空気圧警告灯	
	タイヤ空気圧の低下	タイヤ空気圧を調整する
	タイヤ空気圧警報システムの異常	→ P. 274

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：

→ P. 279

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

以下のような条件では、システムが正しく作動しない場合があります。

- 空気圧バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用している場合
- 空気圧バルブ／送信機の ID が ECU に登録されていない場合
- 近くに同じような無線周波数を使っている施設、器具がある場合
- 車内で同じような無線周波数を使っている電子機器を使用している場合
- 車両（特にホイール、ホイールハウスの周り）に多くの雪、氷などがついた場合
- 純正ホイール以外を使用している場合
- タイヤチェーンを装着している場合
- タイヤ空気圧が異常に高すぎる場合（500kPa 以上）
- ID コードが誤って選択されている場合

なお、タイヤ空気圧警告灯の点滅状態が続く場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方が変わり、システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤの種類によっては、純正ホイールを使用している場合でもバルブ／送信機が正常に作動しない事があります。（例：スチールフィラー入りタイヤ）
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 220）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。



1 マスターウォーニング


マルチディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告は、車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足  (点滅)	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いとき表示されます。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
ヘッドライト システムチェック 	ヘッドライトオートレベリングシステムの異常
リアランプ システムチェック 	リヤランプ制御システムの異常
ステアリングロック システム確認  (点滅)	ステアリングロックシステムの異常
AWD システムチェック  (AWD 車)	AWD システムの異常
アクティブサス システムチェック 	アクティブスタビライザーサスペンションシステム*の異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備


警告メッセージ	警告内容
<p>PCS システムチェック</p> <p>PCS</p> 	<p>PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常</p>
 <p>ソナー チェック (点滅後点灯)</p> 	<p>クリアランスソナー*の異常 異常のあるソナーが点滅して表示されます。</p>
<p>クルーズ システムチェック</p> <p>CRUISE (点滅)</p> 	<p>レーダークルーズコントロールシステム*の異常 安全な場所に停車後、エンジンを始動しなおし、レーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。</p>
<p>DABC システム異常</p> <p>DABC (点滅)</p> 	<p>DABC（ドライバーアシストブレーキングコントロール）*の異常</p>
<p>充電系 システムチェック</p> 	<p>充電システムの異常</p>

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
パワーステアリング システムチェック 	パワーステアリングシステムの異常
ブレーキ異常	ブレーキシステムの異常
ABSチェック	ABS の異常

ただちに点検を受けてください。

放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
VGRS システムチェック 	VGRS * の異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備




ただちに処置してください。

警告ブザーとともに警告メッセージが表示されます。以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席 ドア開  助手席 ドア開  右後席 ドア開  左後席 ドア開 	各ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h を超えたときには  が点滅します。	各ドアを閉める
ボンネット オープン 	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h を超えたときには  が点滅します。	ボンネットを閉める
トランク オープン 	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h を超えたときには  が点滅します。	トランクを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
  (点滅)	ムーンルーフ*が確実に閉まっていない状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
  (点滅)	パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/hを超えた	パーキングブレーキを解除する
 	エンジンオイルの不足	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する
 	クリアランスソナー*のセンサー部分のよごれ、氷などの付着	よごれおよび氷などを取り除く

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
<p>PCS 現在使用できません</p> <p>PCS (点滅)</p>	<p>PCS (プリクラッシュセーフティシステム)が現在機能していないことを示す</p>	<p>グリルまたはレーダーセンサーのよごれを取り除く</p> <p>プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。</p>
<p>レーダー汚れ 清掃必要</p> <p>CRUISE (点滅)</p> 	<p>レーダークルーズコントロール*のセンサー部分のよごれ、氷などの付着</p>	<p>よごれおよび氷などを取り除く</p>
<p>悪天候 クルーズできません</p> <p>CRUISE (点滅)</p> 	<p>レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可</p>	<p>システムが悪天候と判断したため、使用できません。</p>
<p>LKA システムチェック</p> <p>LKA (点滅)</p> 	<p>LKA (レーンキーピングアシスト)*の異常</p>	<p>エンジン再始動後、LKAを再起動する</p>

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	フロントグリルの前後面、またはレーダーセンサー前面がよごれていることを示す	よごれを取り除く
	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある	ブレーキペダルを踏む

知識

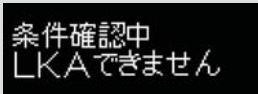

■レーダークルーズコントロール*の警告メッセージについて

- 悪天候でないときに警告メッセージ「悪天候クルーズできません」が表示されたときは、次のことを確認してください。
 - ・ モードセレクトスイッチが「スノーモード」になっていませんか
 - ・ ワイパーが高速で作動していませんか
- 以下のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。
 - ・ 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
 - ・ 先行車が非常に低速走行のとき
 - ・ 速度を設定した直後
 - ・ アクセルペダルが踏まれたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告は対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・白線認識用カメラの異常 高温・異常低温 ・EPS の作動制限中 	LKA * を再起動する
	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) が作動していることを示す	ブレーキペダルを踏む

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	<p>キーが見つかりません (10 秒間点灯) (点滅)</p>	電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	<p>キーが見つかりません (点滅)</p>	電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタートストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタートストップ” スイッチを OFF にせず、運転席ドアが開閉された	“エンジン スタートストップ” スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	<p>Pレンジに入れて下さい</p> <p>キーが見つかりません (交互に表示)</p> <p> (点滅)</p>	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	<ul style="list-style-type: none"> ・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1回	なし	<p>キーバッテリー残りわずか</p> <p> (点滅)</p>	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→ P. 258)
なし	なし	<p>エンジン始動時はブレーキを踏んで下さい</p>	“エンジン スタート ストップ” スイッチがOFFの状態ですずれかのドアを開閉してからエンジンを始動せずに“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードに2回した	ブレーキペダルを踏んで“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す
なし	なし	<p>ステアリングロック未解除</p> <p> (点滅)</p>	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除されなかった	ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチ に触れて下さい	電子キーが正常に 作動していない	→ P. 299
なし	なし	始動するにはブレーキを 踏みながらエンジン スイッチを押して下さい		

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→ P. 27)

パンクしたときは（ランフラットタイヤを除く）

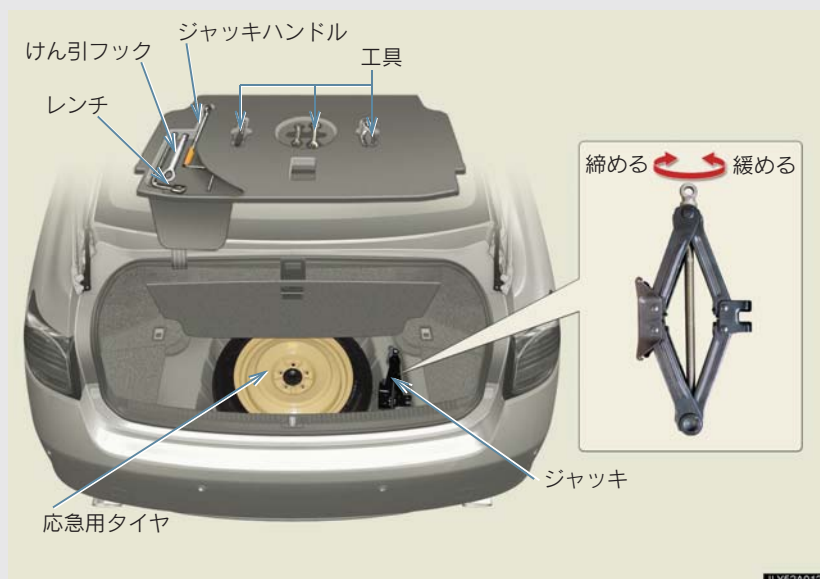
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明は P. 218 をご覧ください。）

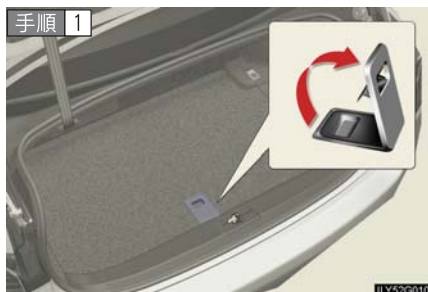
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

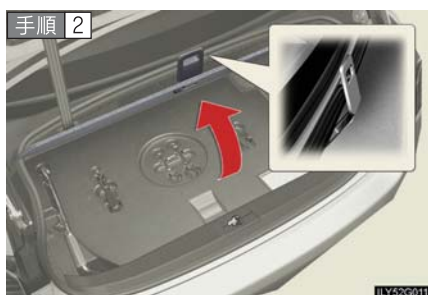
■ 工具とジャッキ位置



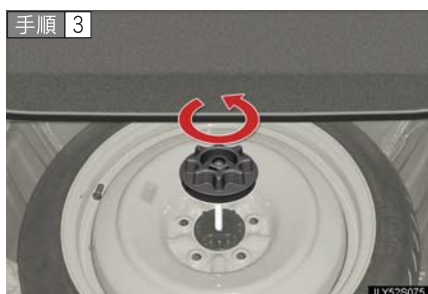
応急用タイヤの取り出し方



ラゲージマットを持ち上げる



ラゲージマットをかける



とめ具を取りはずす

スペアタイヤのとめ具が固くて回らないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、とめ具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください。）

バンクしたタイヤの交換

手順 1



輪止め[※]をする

バンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

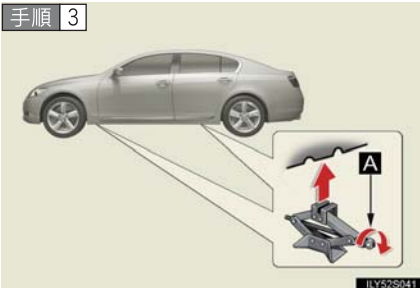
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2



ナットを少し（約 1 回転）緩める

手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

5

トラブルが起きたら



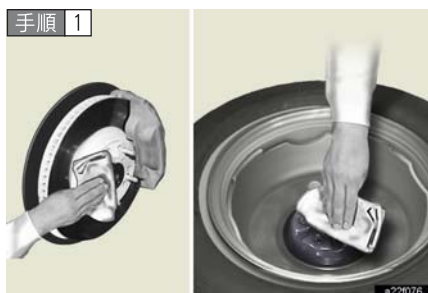
タイヤが地面から少し離れるまで、
車体を上げる



ナットすべてを取りはずし、タイヤ
を取りはずす

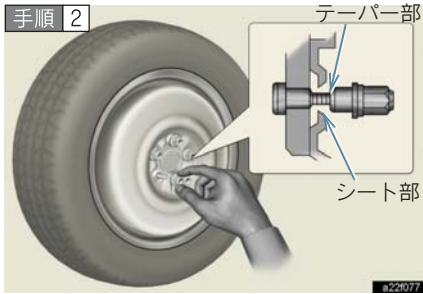
タイヤを直接地面に置くときは、ホイール
の意匠面に傷つかないように意匠面
を上にしてください。

応急用タイヤの取り付け



ホイール接触面のよごれをふき取る

ホイール接触面がよごれていると、走行
中にナットが緩み、タイヤがはずれるお
それがあります。

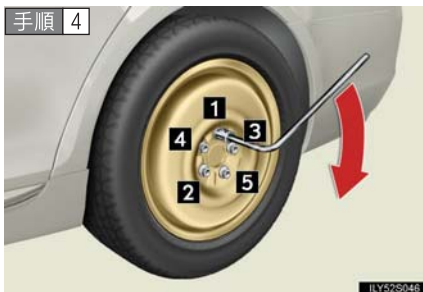


応急用タイヤを取り付け、タイヤが
がたつかない程度まで手でナットを
仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシー
ト部に軽くあたるまでまわします。



車体を下げる



図の番号順でナットを 2、3 度しっ
かり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- サイドウォールに TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 314)
- 応急用タイヤにはタイヤ空気圧バルブ/送信機が装着されていません。指定の通常タイヤに交換し、正しい空気圧に調整するまではタイヤ空気圧警告灯は消灯しません。

 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり、走行しない
 - 車内に人をのせたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

 警告**■ タイヤ交換について**

ケガを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわり、排気管などには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわり、排気管などは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

以下のことをお守りいただかないとナットが緩み、ホイールがはずれ落ち、死亡や重症を負う事故につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

■ **パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ **応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ **応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

■ **応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

タイヤが冷えているときの空気圧：420kPa (4.2kg/cm²)

パンクしたときは（ランフラットタイヤ）

ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。ランフラットタイヤ装着車には、応急用タイヤは装着されていません。（タイヤについての詳しい説明は P. 218 をご覧ください。）



ランフラットタイヤがパンクしたときは、以下の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 90 km/h 以下で走行する
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- 走行距離は 160 km を超えない

知識

■ ランフラットタイヤについて

→ P. 219

注意

■ 段差を乗り越えるときは

タイヤがパンクしているときは、通常に比べ車高が低くなっているため、ご注意ください。

■ 液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるので自動洗車機を使用しないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 107）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ **正規のキーを携帯しているのにエンジンがかからない場合**

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 107）にしたがって、エンジンをかけてください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 74）

■ **スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- 12V バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 301）
- 12V バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ **スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- 12V バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 12V バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 301）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

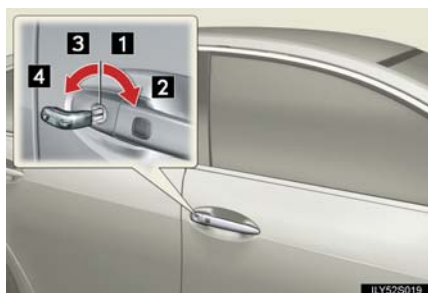
キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 20)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 27）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア



メカニカルキー（→ P. 21）を使って操作します。

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（長まわし）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（長まわし）

▶ トランク



キーを時計まわりにまわして開ける

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

“エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切り替え、エンジンの始動方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

手順 2



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチモードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 108)

エンジンの始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内にブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店に連絡してください。

知識

■ エンジンの停止のしかた

通常の停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

上記のエンジン始動の方法は、一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をお勧めします。(→ P. 258)

5-2. 緊急時の対処法

12V バッテリーがあがったときは

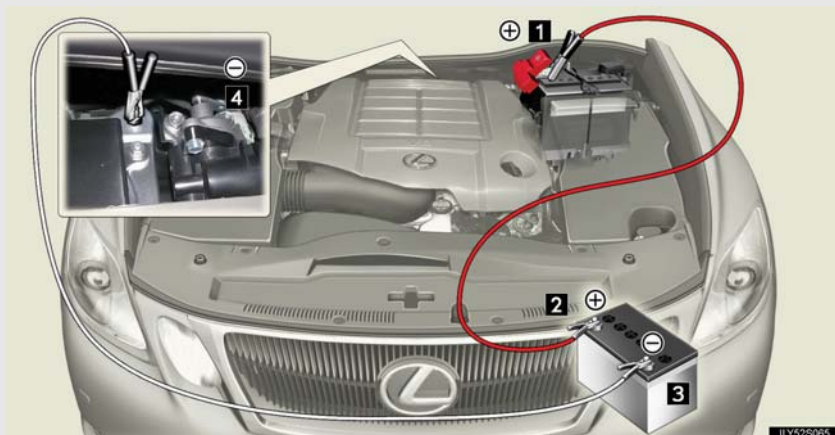
12V バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

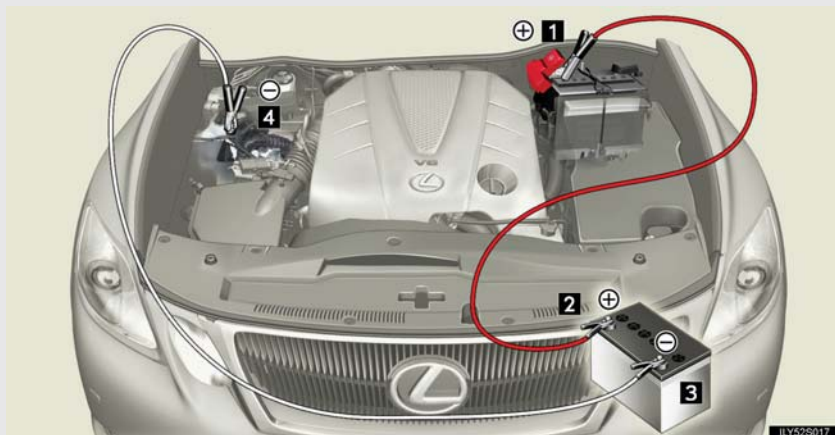
手順 1 エンジンルームカバーをはずす (→ P. 232)

手順 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ GS460



▶ GS350



- 1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、バッテリーから離れた未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 手順 3** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する
- 手順 4** “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 手順 5** 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける
- 手順 6** 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ 12V バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 12V バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 12V バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

- ステアリングセンサーの初期化をおこなってください。
(HDD ナビゲーションシステム取扱説明書の「バックガイドモニター」、「クリアランスソナー」をご覧ください。)
- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてすぐに 12V バッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 警告

■ 12V バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないように以下のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 12V バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 安全な場所に停車して、エアコンを停止する

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する

蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する（→ P. 227）

蒸気が出ていない場合：

エンジンを停止せずに、注意してボンネットを開ける

手順 3 エンジンルームカバーをはずす（→ P. 232）

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、レクサス販売店に連絡する

手順 5



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 312）

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。（別冊「メンテナンスノート」参照）

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る



警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ベルトやファンなどの回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 227）、エンジンルームカバー（→ P. 232）の注意事項もあわせてお読みください。
- エンジン、ラジエーターおよび補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。



注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに、急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

TRC・S-VSCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはS-VSCを停止してください。(→ P. 164)

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ オートマチックトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・
オイル量など） 310

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 316

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 319

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
レクサス車には、最も適した弊社純正オイル・液類のご使用をおすすめします。

弊社純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	71

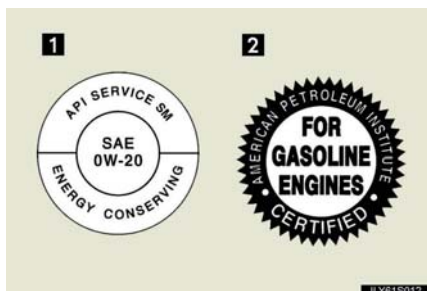
エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値）		
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換	
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20	GS460	8.4	8.6
弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30	GS350 (FR車)	5.9	6.3
弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30	GS350 (AWD車)	6.0	6.4

※ 0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC または、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック
 サーフティフィケーション）マークがついています。

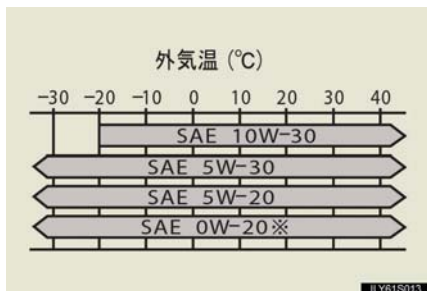


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



* 0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄		容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12°C 濃度 50% -35°C	GS460	11.0
	GS350	9.1

オートマチックトランスミッション

銘柄		容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	GS460	10.8
	GS350 (FR 車)	7.9
	GS350 (AWD 車)	10.0 (含むトランスファー)

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度		容量 [L] (参考値)
フロント (AWD車のみ)	弊社純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5、SAE 85W-90)	0.7
リヤ	弊社純正ディファレンシャルギヤオイルLT (API GL-5、SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄

弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び GS460 GS350	2.0 以下 1.0 ~ 2.0
踏み込んだときの床板とのすき間 （“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モード時） GS460 ※ 1 GS350 ※ 2	86 以上 75 以上

※ 1 196 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

※ 2 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300 N (30 kgf) のときのノッチ※数	7 ~ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)

4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)
		前・後輪
標準タイヤ	225/50R17 94W	230 (2.3)
	245/40R18 93Y	230 (2.3)
応急用タイヤ*	T155/70D17 110M	420 (4.2)

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハイビーム (HIR1)	65
	ロービーム (ディスチャージヘッドライト : D4S)	35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト (HB4)	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯※ ¹	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯※ ¹	21
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ドアミラー照明	5
	制動灯&尾灯	LED ※ ²
	尾灯	LED ※ ²
	ハイマウントストップライト	LED ※ ²
	番号灯	LED ※ ²
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※ ²

※¹ アンバーバルブ (オレンジ色の電球) です。

※² LED は Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	トランクリイト	5
	バニティライト	8
	インテリアライト	LED ※
	パーソナルライト	LED ※
	ドアカーテシライト	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※
	シフト照明	LED ※
	ドアハンドル照明	LED ※
	フロントスカッフ照明	LED ※
	足元照明	LED ※
	ステアリング照明	LED ※

※ LED は Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
GS460	URS190	1UR-FSE (4.6L ガソリン)	FR (後輪駆動)
GS350 (2WD)	GRS191	2GR-FSE (3.5L ガソリン)	FR (後輪駆動)
GS350 (AWD)	GRS196	2GR-FSE (3.5L ガソリン)	AWD (全輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 24)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	電源切り忘れ警報の音の間隔	標準	短め 長め
ワイヤレスドアロック (→ P. 33)	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒
			120秒
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	トランク解錠機能	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1回長押し	2回押し
1回短押し			
半ドア警告ブザー	あり	なし	

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ドアロック (→ P. 35)	キーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	シフト連動オートロック	なし	あり
	シフト連動オートアンロック	あり	なし
	車速感応オートロック	あり	なし
	運転席ドア連動オートアンロック	なし	あり
パワーウィンドウ (→ P. 63)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	なし
ムーンルーフ (→ P. 66)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
オートアラーム (→ P. 75)	メカニカルキーを使って解錠したときの作動	なし	あり
ライト自動点灯・消灯システム (→ P. 129)	ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
ワイパー&ウオッシャー (→ P. 134)	停車時の間欠作動切替	あり	なし
	液だれ防止作動	あり	なし
	液だれ防止作動が働くまでの時間	車速可変	3 秒
イルミネーション (→ P. 186)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒 30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にした後の作動	あり	なし
	ドアを開けたときのパーソナルライトの点灯	開けたドアの席のライトのみ点灯	すべて点灯 点灯しない
	足元照明の点灯	あり	なし
	ステアリング照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	インテリアライトスイッチが ON のときのパーソナルライトの点灯	あり	なし
リヤサンシェード (→ P. 204)	リバース連動機能が作動するまでの時間	0.7 秒	0 秒
			0.9 秒
			1.2 秒
その他	車速警報ブザー	なし	あり

初期設定が必要な項目

以下の項目はメンテナンスをおこなった後などに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
タイヤ空気圧警報システム	走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合	P. 220

さくいん

略語一覧.....	322
五十音順さくいん.....	323
症状別さくいん.....	334

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備（エアコン・オーディオなど）は、別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI	アーティフィシアル・インテリジェンス
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
DABC	ドライバーアシストブレーキングコントロール
DISP	ディスプレイ
ECU	電気的制御ユニット
EPS	電気的パワーステアリング
LED	ライトエミティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギアレシオステアリング
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト (リヤ).....	203
	アクセサリーソケット	200
	アクセサリーモード	108
	足元照明.....	186
	アダプティブリアブル	
	サスペンションシステム	161
	アダプティブフロントライティング	
	システム	130
	アンチロックブレーキシステム.....	163
	い	イグニッションスイッチ
“エンジン スタート ストップ”		
スイッチ		107
イモビライザーシステム		74
イルミネーテッドエントリー		
システム		186
インテリアライト		
スイッチ		187
インナーミラー		59
う		ウインカー (方向指示灯)
	W 数.....	314
	スイッチ	116
	電球の交換	236, 238
	ウインドウ	
	ウォッシュャー	134
	パワーウインドウ.....	63
	ウインドウロックスイッチ	63
	ウォーニングライト	271
	ウォッシュャー	
液の補給	260	
スイッチ	134	
タンク容量	313	
冬の前の準備・点検.....	180	

運転	
寒冷時の運転	180
正しい姿勢	80
手順	98
運転席シートベルト	
非着用警告灯.....	273
運転席シートポジション	
メモリー	45

え	エアコン※	
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ	81
	一般的な警告	86
	お子さまのための注意.....	86
	カーテンシールドエアバッグに	
	関する警告	88
	カーテンシールドエアバッグの	
	作動条件	83
	改造・分解などに関する警告	88
警告灯	272	
サイドエアバッグに		
関する警告	88	
サイドエアバッグの作動条件	83	
作動条件	83	
正しい姿勢	80	
配置	81	
エレクトリックパワー		
ステアリング.....	163	
エンジン		
エンジン回転計		
(タコメーター)	119	
エンジン警告灯.....	272	
エンジン (イグニッション)		
スイッチ	107	

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

エンジンルームカバー	232
オーバーヒート	304
ボンネット	227
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	180
容量	310
エンジンブレーキ段数表示灯	113
お 応急用タイヤ	287
オーディオ※	
オートアウェイ& オートリターン機構	58
オートアラーム	75
オートマチックトランスミッション オートマチックトランス ミッション	111
Sモード	113
シフトレバーが シフトできない	297
オートレベリングシステム	131
オーバーヒート	304
オープナー	
給油口	70
トランク	40
ボンネット	227
お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ	63
エアバッグに関する警告	86
お子さまのシートベルト着用	56
シートヒーターに 関する警告	202
シートベルトコンフォート ガイド	54
シートベルトに関する警告	56
12Vバッテリーに関する 警告	303

チャイルドシート	89
チャイルドプロテクター	36
電子キーの電池に関する 警告	259
トランクに関する警告	42
パワーウィンドウに 関する警告	65
ムーンルーフに関する警告	69
オドメーター	119
オドメーター/トリップメーター 切り替えボタン	120
か カーテンシールドエアバッグ	81
外気温度表示	127, 197
外装の手入れ	212
買い物フック	207
カスタマイズ機能	316
ガソリンスタンドでの情報	338
カップホルダー	193
寒冷時の運転	180
き キー	
キー	20
キーナンバー	20
キーを無くした	298
電子キー	20
電子キーが正常に働かない	299
メカニカルキー	21
ワイヤレスドアロック	33
キーレスエントリー	33
救急箱固定用バンド	207
給油口	70

緊急時の対処

エンジンがかからない	296
オーバーヒートした	304
キーを無くした	298
警告灯がついた	271
警告メッセージが表示された	275
けん引	267
スタックした	307
12Vバッテリーが	
あがった	301
シフトレバーが	
シフトできない	297
電子キーが正常に働かない	299
発炎筒	265
パンクした	287, 295

< 空気圧 (タイヤ) 314

区間距離計

(トリップメーター)	119
------------	-----

曇り取りスイッチ※

クルーズコントロール

クルーズコントロール	137
------------	-----

レーダークルーズ

コントロール	141
--------	-----

グローブボックス 190

グローブボックスライト 190

け 計器

メーター	119
------	-----

メーター照度調整スイッチ	120
--------------	-----

警告灯

SRS エアバッグ	272
-----------	-----

アンチロックブレーキ

システム	272
------	-----

エンジン	272
------	-----

シートベルト非着用	273
-----------	-----

充電	271
----	-----

タイヤ空気圧	273
--------	-----

電子制御ブレーキシステム	272
--------------	-----

燃料残量	273
------	-----

パワーステアリング	272
-----------	-----

半ドア	273
-----	-----

プリクラッシュセーフティ

システム	272
------	-----

プリテンショナー	272
----------	-----

ブレーキ	271
------	-----

ブレーキアシスト	272
----------	-----

マスターウォーニング	275
------------	-----

警告メッセージ

ABS	278
-----	-----

AWD システム	276
----------	-----

DABC	277, 282
------	----------

LKA	281, 283
-----	----------

VGRS	278
------	-----

アクティブスタビライザー

サスペンションシステム	276
-------------	-----

エンジンオイル圧力	275
-----------	-----

エンジンオイル量	280
----------	-----

キーバッテリー	285
---------	-----

クリアランスソナー	277, 280
-----------	----------

充電システム	277
--------	-----

ステアリングロック	276, 285
-----------	----------

スマートエントリー&

スタートシステム	284
----------	-----

ドア	279
----	-----

トランク	279
------	-----

パワーステアリング	278
-----------	-----

パーキングブレーキ	280
-----------	-----

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

プリクラッシュセーフティ システム	277, 281
ブレーキシステム.....	278
ヘッドライトオートレベリング システム	276
ボンネット	279
ムーンルーフ	280
リヤランプ	276
レーダークルーズ コントロール	277, 281
警告ブザー	
シートベルト非着用.....	273
半ドア走行時	279
ブレーキ	271
警報ブレーキ.....	173
化粧用（バニティ）ミラー	196
けん引	267
こ コインホルダー	192
交換	
タイヤ	218, 287, 295
電球	234
電子キーの電池	258
ヒューズ	242
工具（ツール）.....	287
後退灯	
W 数.....	314
電球の交換	239
小物入れ.....	192
コンソールボックス	191
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）.....	129

さ サイドエアバッグ	81
サイド方向指示兼非常点滅灯	
W 数.....	314
サンシェード	
リヤ	204
ルーフ	68
サンバイザー	195
し シート	
シートヒーター.....	201
シートポジションメモリー	48
正しい姿勢	80
チャイルドシートの固定	89
調整	44
調整に関する警告.....	44
手入れ	215
ドライビングポジション メモリー	45
ヘッドレスト	50
ベンチレーター.....	201
シートヒーター&	
ベンチレーター	201
シートベルト	
おさまの着用.....	56
緊急時シートベルト固定機構	55
シートベルト非着用警告灯	273
シートベルト	
プリテンショナー	54
清掃・手入れ	216
正しい着用	53
チャイルドシート固定機構	55
チャイルドシートの固定	89
調整	53
妊娠中のかたの着用	55

シガレットライター	199
室内灯 (インテリアライト)	186
スイッチ	187
シフト照明	186
シフトポジション表示灯	113
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	111
シフトレバーが	
シフトできない	297
シフトダウン制限警告ブザー	114
シフトロックシステム	297
ジャッキ	
ガレージジャッキ	230
車載ジャッキ	287
ジャッキハンドル	287
車幅灯	
W 数	314
電球の交換	235
ライトスイッチ	129
車両型式	315
車両仕様	315
充電警告灯	271
12V バッテリー	301
12V バッテリーのターミナルを	
脱着したときは	319
収納装備	189
初期設定	
初期設定が必要な項目	319
助手席シートベルト	
非着用警告灯	273
助手席シートポジション	
メモリー	48

す 水温計	119
スイッチ	
MODE スイッチ	
(光感応機能)	121
ウインドウロックスイッチ	63
エンジン (イグニッション)	
スイッチ	107
ドアロックスイッチ	35
ハザードライトスイッチ	264
パワーウインドウスイッチ	63
非常点滅灯スイッチ	264
フォグライトスイッチ	132
モードセレクトスイッチ	112
ライトスイッチ	129
ワイパー&ウオッシャー	
スイッチ	134
スタック	
スタックした	307
ステアリングアシステッド・	
ビーグルスタビリティ	
コントロール	163
ステアリングホイール	
ステアリング照明	186
調整	58
ハンドルポジションメモリー	45
スピードメーター (速度計)	119
スペアタイヤ	
空気圧	314
収納場所	287
スマートエントリー&	
スタートシステム	24
せ 清掃	
外装	212
シートベルト	216
内装	215
積算距離計 (オドメーター)	119

洗車	212	つ ツール (工具)	287
前照灯 (ヘッドライト)		て ディスチャージヘッドライト	
W数	314	W数	314
スイッチ	129	オートレベリングシステム	131
ディスチャージヘッドライトに		ディスチャージヘッドライトに	
関する警告	241	関する警告	241
電球の交換	235	ライトスイッチ	129
そ 速度計 (スピードメーター)	119	ディスプレイ (マルチディスプレイ)	
ソケット (アクセサリ		警告メッセージ	275
ソケット)	200	トリップインフォメーション ...	127
た タイヤ		レーダークルーズ	
応急用タイヤ	287	コントロール	141
空気圧	314	レーンキーピングアシスト	154
空気圧警報システム	218, 220	手入れ	
空気圧バルブ/送信機	219, 221	外装	212
交換	289	シートベルト	216
チェーン	180	内装	215
超扁平タイヤ	222	テールライト	
点検	218	スイッチ	129
パンクした	287, 295	電球	
冬用タイヤ	180	W数	314
ランフラットタイヤ	219	交換	234
ローテーション	218	電子キー	
正しい運転姿勢	80	正常に働かない	299
ち チェーン (タイヤチェーン)	180	電池交換	258
チャイルドシート		電子制御ブレーキ警告灯	272
ISOFIX バーでの固定	91	電話スイッチ※	
シートベルトでの固定	90		
チャイルドプロテクター	36		
駐車ブレーキ			
(パーキングブレーキ)	117		

と	ドア	
	ドアガラス	63
	ドアミラー	60
	ドアロック	35
	ドアカーテシライト	186
	ドアガラス.....	63
	ドアポケット.....	194
	ドアミラー	
	調整.....	60
	ミラーポジションメモリー.....	45
	ドアミラー照明	
	W数.....	314
	ドアミラー照明	186
	盗難警報アラーム	
	(オートアラーム).....	75
	盗難防止システム	
	イモビライザーシステム.....	74
	オートアラーム	75
	トークスイッチ*	
	ドライバーストブレーキング	
	コントロール.....	151
	ドライバーモニター	170
	ドライビングポジションメモリー....	45
	トラクションコントロール	163
	トランク	
	オープナー	40
	トランクライト	41
	トランクスルー	208
	トランクライト	
	W数.....	315
	トリップインフォメーション	127
	トリップメーター	119
	リセットボタン	120

な	内装の手入れ.....	215
	NAVI・AI-AVS.....	161
	ナビゲーションシステム*	
に	荷物	
	積むときの注意.....	178
	荷物固定用フック	207
ね	燃料	
	ガソリンスタンドでの情報	338
	給油	70
	種類	310
	燃料計	119
	残量警告灯	273
	容量	310
の	上り坂発進のしかた	98
は	パーキングブレーキ	117
	点検基準値	313
	パーソナルライト	
	スイッチ	188
	灰皿	198
	発炎筒.....	265
	バックアップライト	
	W数.....	314
	電球の交換	239
	バッテリー.....	301
	バニティ (化粧用) ミラー	196
	バニティライト	
	W数.....	315
	バニティライト.....	196
	バリアブルギアレシオ	
	ステアリング.....	163

* : 別冊「HDDナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

バルブ	
W数	314
交換	234
パワーウィンドウ	63
“エンジン スタート ストップ”	
スイッチ OFF 後の作動	64
ドアロック連動ドアガラス	
開閉機能	64
挟み込み防止機能	64
ロックスイッチ	63
パンク	
パンクした	287, 295
半ドア警告灯	273
半ドア走行時警告ブザー	279
ハンドル	
調整	58
ハンドルポジションメモリー	45
番号灯	
W数	314
操作	129
ひ ビークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント	163
非常点滅灯スイッチ	264
ヒーター	
シートヒーター	201
光感応機能（メーター）	121
尾灯	
スイッチ	129
ヒューズ	
ヒューズの点検・交換	242
ヒューズの配置と負荷	245

ふ

表示灯	124
ヒルスタートアシスト	
コントロール	163
フォグライト	
W数	314
スイッチ	132
電球の交換	237, 239
フック	
買い物フック	207
けん引フック	268
荷物固定用フック	207
フューエルキャップ	70
冬用タイヤ	180
プリクラッシュセーフティ	
システム	170
警告灯	272
ブレーキ	
警告灯	271, 272
パーキングブレーキ	117
ブレーキアシスト	163
警告灯	272
フロアマット	206
フロントシート	
シートポジションメモリー	48
調整	44
ドライビングポジション	
メモリー	45
フロントターンシグナルライト	
W数	314
電球の交換	236
フロントフォグライト	
W数	314
スイッチ	132
電球の交換	237

へ	ヘッドライト	
	W数	314
	上向き表示灯	124
	スイッチ	129
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	241
	電球の交換	235
	ヘッドレスト	
	調整	50
	ベンチレーター	201
	ほ	ホイール
タイヤについて		218
タイヤサイズ		314
方向指示灯		
W数		314
レバー		116
電球の交換		236, 238
本革部分の手入れ		215
ボンネット		227
ホーン		118
ま	マスターウォーニング	275
	マルチディスプレイ	126
み	ミラー	
	インナーミラー	59
	ドアミラー	60
	バニティ（化粧用）ミラー	196
む	ムーンルーフ	66
	“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動	67
	ドアロック連動ムーンルーフ 開閉機能	67
	挟み込み防止機能	68

め	メーター	
	メーター	119
	メーター照度調整スイッチ	120
	メンテナンス	
	メンテナンスデータ	310
ゆ	ユーザーカスタマイズ機能	316
	ら	
ら	ライセンスプレートライト（番号灯）	
	ライトスイッチ	129
	ラゲージマット	208
	ライト	
	W数	314
	室内灯	186
	電球の交換	234
	インテリアライト	187
	ドアカーテシライト	186
	ハザードライト	264
	パーソナルライト	188
	バニティライト	196
	非常点滅灯	264
	フォグライト	132
	ヘッドライト	129
	方向指示灯	116
	ランフラットタイヤ	219, 295
ライト消し忘れ防止機能	131	
ライトスイッチ	129	

リ	リバース警告ブザー	114
	リヤアームレスト	203
	リヤウインドウデフォッガー スイッチ※	
	リヤサンシェード	204
	リヤターンシグナルライト	
	W 数	314
	電球の交換	238
	リヤフォグライト	
	W 数	314
	スイッチ	133
電球の交換	239	
れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検.....	180
	容量	312
	冷却装置	
	オーバーヒート	304
	レーダークルーズコントロール.....	141
	レーンキーピングアシスト	154
	ロービーム (ヘッドライト)	
	W 数.....	314
	操作	129
ディスチャージヘッドライト に関する警告	241	
ロックモード (シートベルト)	90	
ロックレバー	35	
わ	ワイパー	
	スイッチ	134
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換	258
リモコン	33	

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



タイヤがパンクした

P. 287
P. 295

パンクしたときは



エンジンが始動しない

P. 296

エンジンがかからないときは

P. 74

イモビライザーシステム

P. 301

12V バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 297

シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 304

オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 298

キーを無くしたときは



12V バッテリーが
あがった

P. 301

12V バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 35

ドア



ホーンが鳴り出した

P. 75

オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 307

スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 271 警告灯がついたときは



警告灯一覧

- | | | | |
|---|--------------------------------|---|---------------------------|
|  | ブレーキ警告灯
P. 271 |  | 運転席シートベルト非着用警告灯
P. 273 |
|  | 電子制御ブレーキ警告灯
P. 272 |  | 助手席シートベルト非着用警告灯
P. 273 |
|  | ABS& ブレーキアシスト警告灯
P. 272 |  | マスターウォーニング
P. 275 |
|  | 燃料残量警告灯
P. 273 |  | タイヤ空気圧警告灯
P. 273 |
|  | SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯
P. 272 |  | パワーステアリング警告灯
P. 272 |
|  | 半ドア警告灯
P. 273 |  | PCS警告灯
P. 272 |
|  | エンジン警告灯
P. 272 |  | スリップ表示灯
P. 272 |
|  | 充電警告灯
P. 271 | | |



警告メッセージが表示された

P. 275 警告メッセージが表示されたときは



警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅、またはマルチディスプレイの警告メッセージを確認してください。

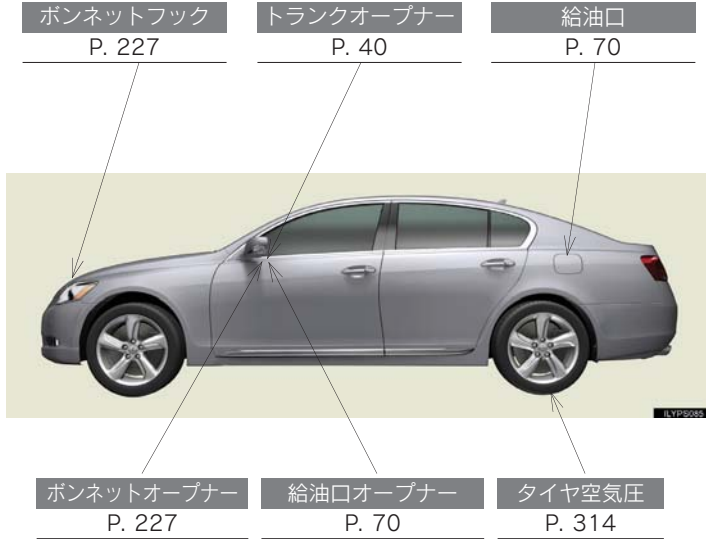
- 警告灯が点灯または点滅している (→ P. 271)
- 警告メッセージが表示されている (→ P. 275)

■警告灯の点灯・点滅や、マルチディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のページを参照してください。

車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 31
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 114
	シフトダウンしたとき	P. 114
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 145
	ブレーキペダルを踏んだとき (きしみや引っかき音)	P. 105

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



燃料の容量	71L		
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 71, 310		
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)		
エンジンオイル容量	GS460	GS350(2WD)	GS350 (AWD)
オイルのみ交換時	8.4L	5.9L	6.0L
オイルとフィルター交換時	8.6L	6.3L	6.4L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC, SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL, EC, SAE 10W-30)		

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

